

杯B蓋145・147の口径は、14.8~15.1cmを測る。口唇部は下方へ屈曲する。杯A152は、口径13.9cm、器高4.2cmを測り、底に深みをもつ杯である。口唇部に浅い匙面がめぐり、底部はヘラケズリ後ナデで調整されている。

平瓶159は、SD6上面X006遺物群のNo10として検出され、口径15.5cm、胴径20.8cmを測る大型品である。肩部中央にある径4cmの円孔を閉塞して乾燥させた後、改めて肩部の片側に口縁部を接合しており、風船技法を採用していると考えられる。

SK1の遺物として、須恵器(杯B蓋141、杯A155)、土師器(椀A156)がある。杯B蓋141は、口径15.8cm、器高3.4cmを測る。ツマミは扁平擬宝珠であり、口唇部は下方へ屈曲する。杯A155は小型法量で口径12.1、器高4.2cmを測る。底部はヘラ切り後ナデで調整されているが、丸く不安定である。

SK4の遺物として、弥生土器(甕163)がある。口縁部は緩やかに外反し、口唇部に間隔をあけた刻目文をもつ。口径13.7、器高22.6cm、胴部中位で最大径14.4cmを測る小型品である。胴部内外面はハケで調整される。

SK6の遺物として、弥生土器(甕166)がある。口縁部は外反し、口唇部に刻目文がめぐり。口径23.2、器高29.8cm、胴部上位で最大径21.7cmを測る。胴部内外面はハケで調整される。底部に焼成後の底部穿孔が認められる。

SK20の遺物として、弥生土器(甕165、壺162)がある。甕165は口縁部は外反し、口唇部に刻目文がめぐり。口径25.8cm、胴部上位で最大径22.6cmを測る。胴部内外面はハケで調整される。壺162は、口縁部は外反し、口唇部に刻目文がめぐり。口径14.5cm、胴部下位で最大径18.0cmを測る小型品である。胴部内外面はハケで調整され、頸部から胴部上位に3段の櫛描文が入り、その間に簾状文、波状文、半載同心円文が挿入されている。

SK22の遺物として、弥生土器(無頸壺167)がある。無頸壺167は口径9.5cm、器高10.9cm、胴部上位で最大径12.4cmを測る。外面はハケ、内面はナデで調整され、口縁部に2個1組の紐通し用の穿孔が入る。

SD9の遺物として、弥生土器(壺161)がある。壺161は、口径19.4cmを測る中型品である。口縁部は外反して立ち上がり、口唇部は把厚する。調整は摩耗のため不明である。

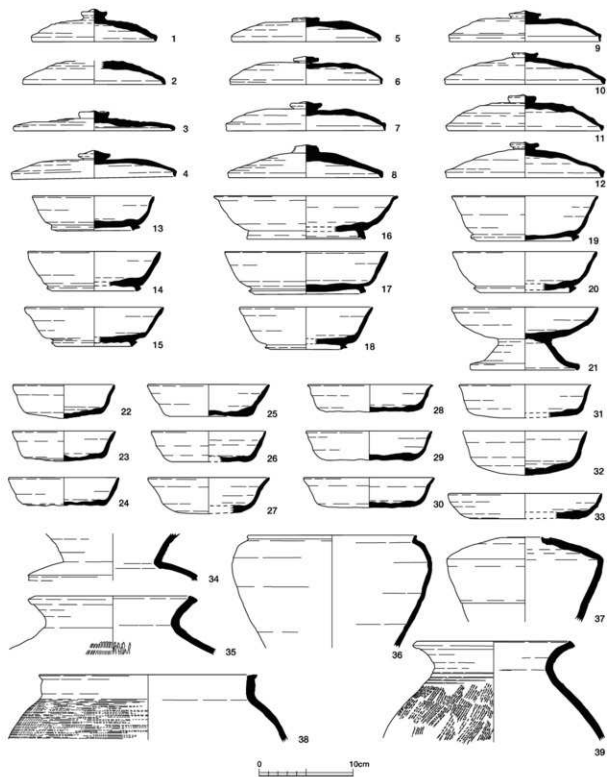
P30の遺物として、弥生土器(甕164)がある。口縁部は外反し、口径21.4cm、胴部上位で最大径17.8cmを測る。胴部内外面はハケで調整される。胴部上位に櫛描文が2段入り、その間に波状文が入る。

Ⅲ区遺構出土の土器(第38図、図版19・20、第1表)

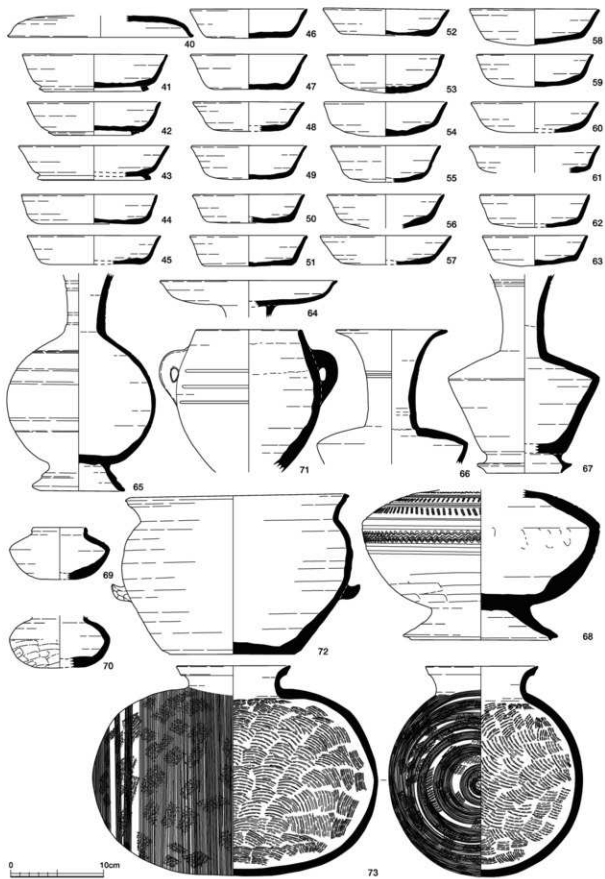
Ⅲ区遺構出土の土器は、須恵器(椀B149、杯A150・151、土師器甕160)を図化できた。

SD5の遺物として、須恵器(杯A150・151)、土師器(甕160)がある。杯A150・151は、口径14.2~14.3cm、器高4.1~4.6cmを測る深みの杯であり、法量が一定している。150の底部は、やや膨らみ安定しない。器面が摩耗し調整は不明である。151は底部はナデで調整されているが、器面は摩耗している。土師器甕160は、口径20.8cm、最大径26.7cmを測る。口縁部はくの字に屈曲し、球形に膨らむ胴部は、内外面ハケで調整される。

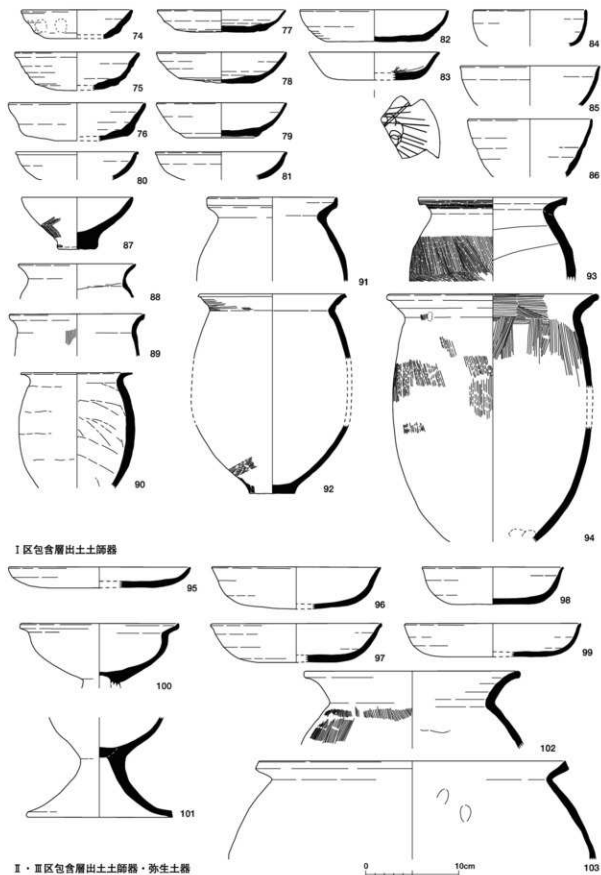
SD6・8の遺物として、須恵器(椀B149)がある。椀B149は口径13.0cm、器高4.7cmを測る。口縁部は内湾して立ち上がり、口唇部に浅い匙面をもつ。高台端面は水平であり、安定して接地している。



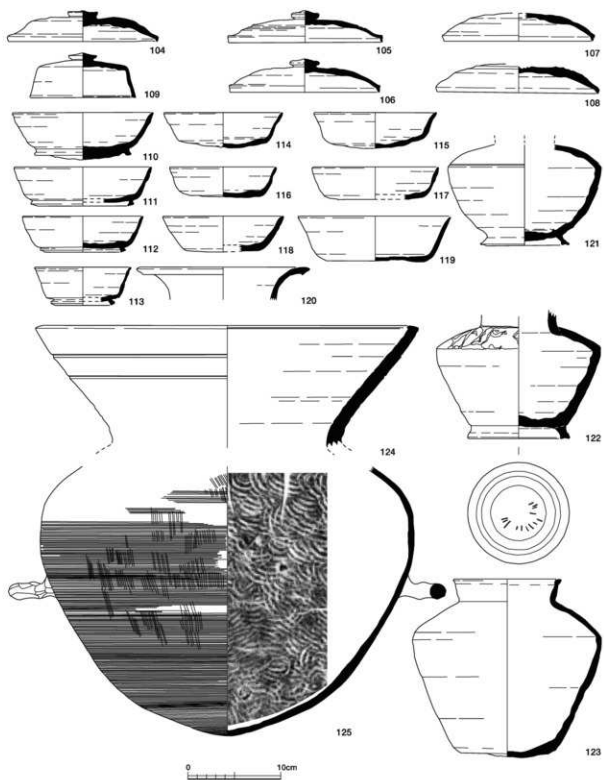
第33图 I区包含層出土 須惠器 (縮尺1:4)



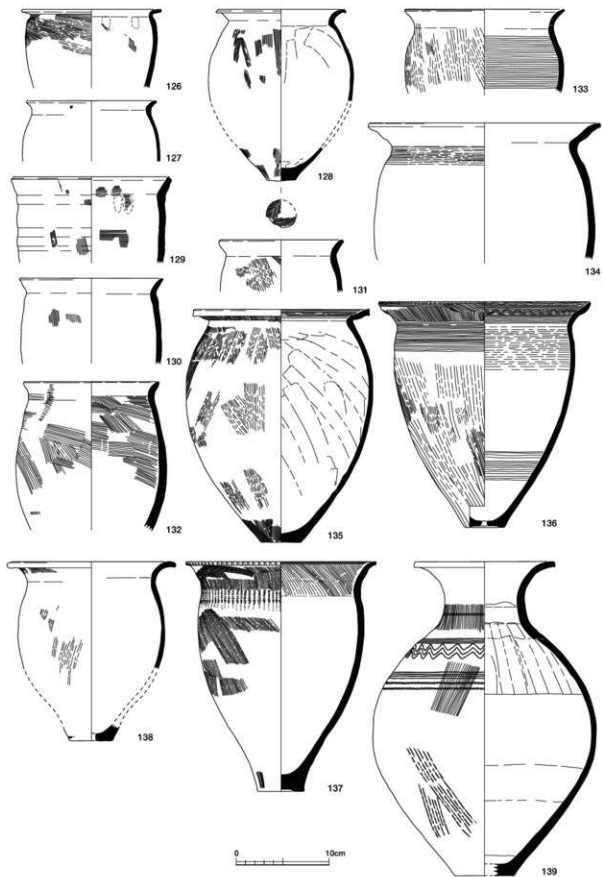
第34图 II・III区包含層出土 須恵器 (縮尺1:4)



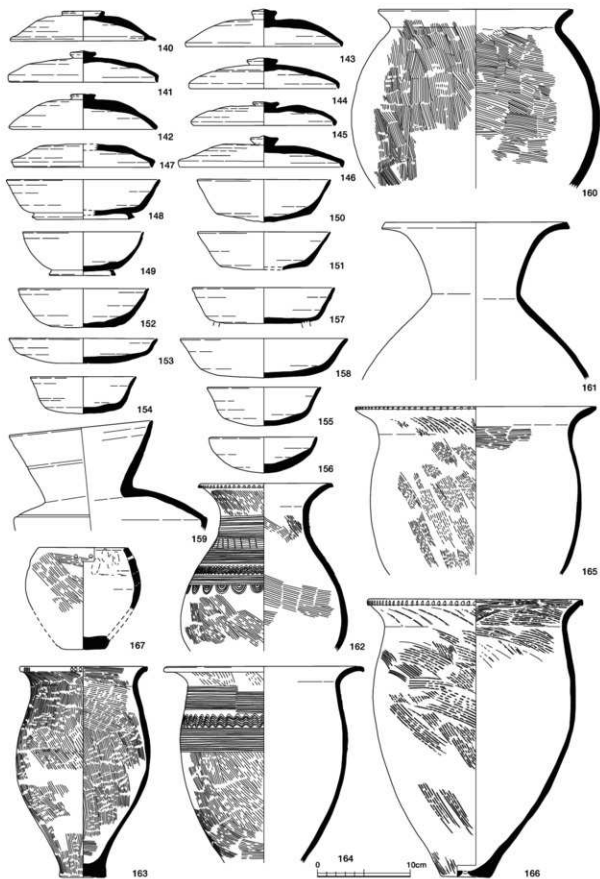
第35图 I~III区包含層出土 土器・弥生土器 (縮尺1:4)



第36图 1区遺構出土 須恵器(縮尺1:4)



第37图 I区遺構出土 土師器・弥生土器 (縮尺1:4)



第38図 II・III区遺構出土 須恵器・土師器・弥生土器(縮尺1:4)

第2表 土器観察表

I区包倉層出土遺物 須惠器(第33図、図版第14-15)

又は包合層を指す。単位はcm

No	器種	残存率	口径	器高	天井径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
1	杯B蓋	1/5	13.0	3.5	8.4	微砂粒 白色粒子 粗織	暗灰色	良好	天井部中央は平坦。フタミは扁平擬宝珠。口縁部と天井部の後縁は1条の沈線。口唇部は短く下方へ屈曲する。	外：天井部回転ヘラケズリ後回転ナダ。 内：天井部中央にシタツ痕。回転ナダ。	G8	X	
2	杯B蓋	1/3	15.1	-	9.0	微砂粒 白色粒子 粗織	灰色	良好	天井部は中央は平坦。口縁部と天井部の後縁は明瞭。口唇部は短く下方へ屈曲してやや外方へ屈曲する。	外：天井部回転ヘラケズリ後回転ナダ。 内：回転ナダ。	F13-14 E12		
3	杯B蓋	1/3	17.4	2.2	12.3	微砂粒 白色粒子 粗織	暗灰色	良好	天井部は平坦気味であり、扁平な器形。フタミは扁平擬宝珠。口縁部と天井部の後縁はやや不明瞭。口唇部は短く下方へ屈曲する。	外：天井部回転ヘラケズリ後回転ナダ。 内：回転ナダ。天井部中央にシタツ痕。	D15 E15	X	
4	杯B蓋	2/3	18.7	3.2	11.0	微砂粒 白色粒子 粗織	暗灰色	良好	天井部中央はやや凹み、扁平な器形。フタミは扁平擬宝珠。口縁部と天井部の後縁はやや不明瞭。口唇部は短く下方へ屈曲する。	外：天井部回転ヘラケズリ後回転ナダ。 内：天井部中央にシタツ痕。	B9 B10	X	自然離片着
5	杯B蓋	2/3	15.7	2.2	9.0	微砂粒 白色粒子 粗織	暗灰色	良好	天井部は平坦。フタミはボタケ状擬宝珠。口縁部はやや丸みをもつ。天井部の後縁は不明瞭。口唇部は短く下方へ屈曲する。	外：天井部回転ヘラケズリ後回転ナダ。 内：回転ナダ。天井部中央にシタツ痕。	C14 D14	X	
6	杯B蓋	2/3	16.0	3.1	8.5	微砂粒 粗織	暗灰色	良好	天井部は平坦であり、フタミは扁平擬宝珠。口縁部はやや丸みをもつ。天井部の後縁は不明瞭。口唇部は短く下方へ屈曲する。	外：天井部回転ヘラケズリ後回転ナダ。 内：回転ナダ。天井部中央にシタツ痕。	E11 E17	X	
7	杯B蓋	1/3	16.8	3.1	9.0	微砂粒 粗織	青灰色	良好	天井部中央はやや凹み、扁平な器形。フタミは扁平擬宝珠。口縁部と天井部の後縁は不明瞭。口唇部は短く下方へ屈曲する。	外：天井部回転ヘラケズリ後回転ナダ。 内：天井部にシタツ痕。回転ナダ。	D20	X	
8	杯B蓋	1/3	16.3	3.5	6.0	微砂粒 白色粒子 粗織	暗灰色	良好	天井部から口縁部まで直線的に伸びる。フタミは欠出した扁平擬宝珠。口唇部は短く下方へ屈曲する。	外：回転ナダ。フタミ貼付時のナダ。 内：天井部にシタツ痕。回転ナダ。	B10 B11	X	歪みあり
9	杯B蓋	1/2	15.4	3.7	9.0	微砂粒 粗織	青灰色	良好	天井部は平坦であり、フタミは扁平擬宝珠。器高は高い。口縁部は直線的に開く。天井部の後縁は不明瞭。口唇部は短く下方へ屈曲する。	外：天井部回転ヘラケズリ後回転ナダ。 内：天井部にシタツ痕。ナダツク。回転ナダ。	F13	X	
10	杯B蓋	1/2	16.8	3.4	9.7	微砂粒 白色粒子 粗織	青灰色	良好	天井部から口縁部までやや直線的に伸びる。フタミは扁平擬宝珠。器高はやや高い。口唇部は短く下方へ屈曲する。	外：天井部回転ヘラケズリ後回転ナダ。 内：天井部にシタツ痕。回転ナダ。	D11 E11	X	
11	杯B蓋	1/3	16.3	3.9	10.0	微砂粒 白色粒子 粗織	灰褐色	良好	天井部は平坦気味であり、フタミは扁平擬宝珠。器高は高い。口縁部は直線的に開く。天井部の後縁は不明瞭。口唇部は短く下方へ屈曲する。	外：天井部回転ヘラケズリ後回転ナダ。 内：天井部にシタツ痕。回転ナダ。	E4	X	歪み
12	杯B蓋	1/1	16.6	3.9	8.3	微砂粒 粗織	暗灰色	良好	天井部から口縁部までやや直線的に伸びる。フタミは扁平擬宝珠。器高はやや高い。口唇部は短く下方へ屈曲する。	外：天井部回転ナダ。 内：天井部にナダツク。回転ナダ。	F18	X	端正なつくり
No	器種	残存率	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
13	杯B	2/3	13.0	3.7	9.5	微砂粒 白色粒子 粗織	灰黑色	良好	口縁部はやや丸みをもつて外方へ立ち上がり開く。高台接地面は内側だけでハの字に踏入る。	外：底部回転ヘラケズリ後回転ナダ。 内：回転ナダ。	E20-21 F9	X	
14	杯B	1/3	14.2	4.2	10.0	微砂粒 白色粒子 粗織	灰色	やや不良	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。高台接地面は内側だけでハの字に踏入る。	外：底部平坦で調整不明。口縁部回転ナダ。 内：回転ナダ。	E16	X	
15	杯B	1/4	14.6	4.2	9.0	微砂粒 白色粒子 粗織	灰褐色	やや不良	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。高台接地面は内側だけでハの字に踏入る。	外：底部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナダ。 内：回転ナダ。	F16-17 G8	X	口縁にやや歪み生焼け
16	杯B	1/3	19.6	4.6	12.6	微砂粒 白色粒子 粗織	暗灰色	良好	口縁部はやや丸味をもつて外方へ立ち上がり開く。高台接地面は内側だけでハの字に踏入る。後縁に近い器形。	外：底部ナダ。口縁部回転ナダ。 内：回転ナダ。	E12	X	器面粗い
17	杯B	1/1	17.4	4.6	12.4	微砂粒 粗織	暗灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。高台接地面は内側だけでハの字に踏入る。	外：底部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナダ。 内：回転ナダ。	F18	X	
18	杯B	1/3	14.2	4.5	8.7	微砂粒 白色粒子 粗織	暗灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。高台接地面は内側だけでハの字に踏入る。	外：底部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナダ。 内：回転ナダ。	E15	X	

第4章 遺物

No	器種	残存率	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
19	杯B	1/3	15.4	4.9	11.4	微砂粒 白色粒子 厚敷	暗灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。口唇部はやや外反する。高台内面は内側だけでハの字に陥入する。	外：底部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	E13 F13	X	端正なつくり
20	杯B	1/3	15.3	4.4	11.8	微砂粒 白色粒子 厚敷	明灰褐色	良好	口縁部はやや丸味をもって外方へ立ち上がり開く。高台内面は内側だけでハの字に陥入する。	外：底部回転ヘラケズリ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	F13	X	
21	高杯	2/3	15.6	6.7	11.6	微砂粒 白色粒子 厚敷	淡灰褐色	良好	全体的に扁平な器形。口縁部は外方へ立ち上がり内湾して立ち上がり。口唇部は丸く取める。脚部はハの字に開き、脚部は固く下方へつまみ出す。	杯部 外：体部は回転ナデ。 内：体部は回転ナデ、底部にハの字脚部 内外面回転ナデ。	E20	X	脚部 杯部欠損
22	杯A	1/2	10.8	3.6	8.0	微砂粒 白色粒子 厚敷	灰色	良好	口縁部は中位まで直線的に外方へ立ち上がり、中位からやや内湾して開く。	外：底部回転ヘラ切り。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	F20	X	
23	杯A	3/5	11.9	3.2	6.5	微砂粒 白色粒子 厚敷	暗灰色	やや不良	口縁部は中位から外反して開く。	外：底部回転ヘラ切り後ナデ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	F20	X	歪み
24	杯A	1/2	11.6	3.0	8.9	微砂粒 白色粒子 厚敷	青灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。	外：底部回転ヘラ切り後ナデ。口縁部回転ナデ。 内：底部ナデナック。回転ナデ。	F20	X	歪み
25	杯A	1/3	13.0	3.4	8.3	微砂粒 白色粒子 厚敷	淡灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。	外：底部回転ヘラ切り後ナデ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	E18	X	底部中央ヘラ切りの際のくぼみあり 歪み焼き痕
26	杯A	2/5	12.1	3.3	8.2	微砂粒 白色粒子 厚敷	青灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。	外：底部ナデ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	F14 G13	X	歪み焼き痕
27	杯A	1/3	13.0	3.8	7.0	微砂粒 白色粒子 厚敷	暗灰色	良好	口縁部は中位から外反して開く。	外：底部回転ヘラ切り後ナデ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。底部にシツク	D12	X	
28	杯A	2/5	13.2	2.9	9.4	微砂粒 白色粒子 厚敷	灰色	良好	口縁部は中位から外反して開く。	外：底部回転ヘラ切り後ナデ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	E12	X	外面に歪み 焼き痕
29	杯A	1/3	13.4	3.0	9.0	微砂粒 白色粒子 厚敷	灰色	良好	口縁部は中位から外反して開く。	外：底部回転ヘラ切り後ナデ。口縁部回転ナデ。 内：底部ナデナック。回転ナデ。	D15 E15	X	外面に歪み 焼き痕
30	杯A	1/4	13.9	3.2	9.0	微砂粒 白色粒子 厚敷	明灰褐色	良好	口縁部は上位から外反して開く。	外：底部回転ヘラ切り。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	E12	X	器面粗い
31	杯A	1/8	14.0	3.5	10.7	微砂粒 白色粒子 厚敷	青灰色	良好	口縁部は上位から弱く外反して開く。	外：底部回転ヘラ切り後ナデ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	E15	X	
32	杯A	1/3	13.2	4.7	9.7	微砂粒 白色粒子 厚敷	灰色	良好	口縁部は上位から弱く外反して開く。底部は丸みをもつ。	外：底部回転ヘラ切り後ナデ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	E12	X	
33	盤A	1/4	16.4	2.7	11.6	微砂粒 白色粒子 厚敷	灰色	良好	口縁部は丸みをもって短く立ち上がり開く。	外：底部回転ヘラ切り後ナデ。口縁部回転ナデ。 内：底部ナデナック。回転ナデ。	D15 E15 F13	X	歪み
No	器種	残存率	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
34	広口瓶	1/10	-	-	18.0	微砂粒 白色粒子 厚敷	青灰色	良好	肩の張り出した胴部に外反する口縁部が接続する器形。	外：口縁部、胴部はナデ。 内：口縁部ナデ。頸部ナデ。	D15 E15	X	胴部欠損
35	広口甕	1/3	18.0	6.2	-	小砂粒 白色粒子 厚敷	灰色	良好	口縁部は短く外方へ伸びる。口唇部は肥厚。	外：口縁部から頸部は回転ナデ、胴部上位タタキ 内：頸部ナデ。胴部上位同心円文	D15 E15	X	
36	鉢	2/5	17.8	-	-	微砂粒 白色粒子 厚敷	明灰褐色	良好	口縁部は短く垂直につまみ出され立ち上がる。胴部上位は大きく肩が張る。	外：胴部上位から下位回転ナデ。 内：胴部上位から下位回転ナデ。	D14-B	X	口縁にやや歪み 生焼け
37	長頸瓶	2/5	-	-	16.8	微砂粒 白色粒子 厚敷	暗灰色	良好	胴部上位は大きく肩が張り、胴部中位から底部にかけて直線的に窄まってゆく。本来は、ワッパ状の頸部が接続していたと考えられる。	外：胴部上位から下位回転ナデ。 内：胴部上位から下位回転ナデ。	D15-16 E15-17 F15	X	肩に自然蝕 付着。端正 なつくり
38	広口鉢	1/10	23.2	-	-	微砂粒 白色粒子 厚敷	明灰色	良好	口縁部は短く垂直に立ち上がる。口唇部はやや丸味をもって立ち上がるように肥厚。胴部は球形。	外：口縁部ナデ、胴部上位タタキ 内：口縁部ナデ。胴部上位同心円文をナデ削し。	F14	X	
39	広口甕	1/10	17.2	-	23.5	微砂粒 白色粒子 厚敷	灰色	良好	口縁部は外反し、口唇部内側縁部は短くつまみ出される。胴部には4条、胴部中位の3条の平行沈線が施される。胴部の肩が張る。	外：口縁部ナデ、胴部上位タタキ。 内：口縁部ナデ。胴部上位同心円文。	D15-16 E12 F13	X	

第1節 土器

I区包舍層出土 須恵器 (第34図、図版第15-16)

Xは包舍層を指す。単位はcm

No	器種	残存率	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
40	盤形器	1/4	19.3	-	14.5	微砂粒 白色粒子 厚敷	灰色	良好	天井部は平坦気味であり、扁平な形状。口縁部と天井部の境線はやや不明瞭。口唇部は短く外方へ反る。	外：天井部回転ヘラケズリ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	B9	X	
41	杯皿	2/3	15.5	4.0	11.8	微砂粒 白色粒子 厚敷	青灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。高台接地面は内側だけでハの字に踏ん張る。	外：底部回転ヘラケズリ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	B9 D12	X	焼きムラ
42	杯皿	2/5	14.1	3.8	10.0	微砂粒 白色粒子 厚敷	暗灰色	良好	口縁部はやや丸味をもって内側して外方へ立ち上がり開く。高台接地面は内側だけでハの字に踏ん張る。	外：底部ヘラ切り後ナデ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	B10	X	高台は潰れている。
43	杯皿	1/6	16.1	3.7	12.3	微砂粒 白色粒子 厚敷	灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。高台接地面は内側だけでハの字に踏ん張る。	外：底部回転ナデ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	B10	X	焼きムラ
44	杯A	1/2	15.5	3.2	11.0	微砂粒 白色粒子 厚敷	暗灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。	外：底部ヘラ切り後ナデ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	D14	X	
45	杯A	1/5	14.3	3.1	10.8	微砂粒 白色粒子 厚敷	青灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。	外：底部ヘラ切り後ナデ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	B9	X	焼きムラ
46	杯A	1/4	12.4	3.1	9.0	微砂粒 白色粒子 厚敷	灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。	外：底部ヘラ切り後ナデ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	C9	X	焼きムラ
47	杯A	1/8	12.5	3.8	7.5	微砂粒 白色粒子 厚敷	暗青灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。	外：底部ヘラ切り後ナデ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	E40	X	
48	杯A	1/10	11.9	3.2	7.0	微砂粒 白色粒子 厚敷	灰褐色	やや不良	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。	外：底部ヘラ切り。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	B13	X	
49	杯A	2/5	12.4	3.6	7.5	微砂粒 白色粒子 厚敷	灰黒色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。	外：底部ヘラ切り。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	C15-B	X	
50	杯A	1/10	11.9	3.1	8.8	微砂粒 白色粒子 厚敷	灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。	外：底部ヘラ切り。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	D12	X	
51	杯A	3/5	12.5	3.3	9.4	微砂粒 白色粒子 厚敷	灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。	外：底部ヘラ切り。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	D24	X	器面が粗い
52	杯A	4/5	14.0	3.0	10.0	微砂粒 白色粒子 厚敷	灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。底部はやや丸味をもつ。	外：底部ヘラ切り後ナデ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	D14	X	焼きムラ 歪み
53	杯A	1/2	12.6	4.2	8.0	微砂粒 白色粒子 厚敷	灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。底部は丸味をもつ。	外：底部ヘラ切り後ナデ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	B9	X	自然輪付歪み
55	杯A	1/4	11.8	4.0	7.7	微砂粒 白色粒子 厚敷	灰色	やや不良	口縁部はわずかに外反して立ち上がり開く。底部はやや丸味をもつ。	外：底部ヘラ切り後ナデ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	B9	X	底部に焼きムラ。
56	杯A	1/4	12.5	-	-	微砂粒 白色粒子 厚敷	灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。底部はやや丸味をもつ。	外：底部ヘラ切り後ナデ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	D20	X	歪み 焼きムラ
57	杯A	1/5	14.1	3.1	9.5	微砂粒 白色粒子 厚敷	灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。	外：底部ヘラ切り後ナデ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	D12	X	焼きムラ
58	杯A	4/5	14.0	3.9	10.6	微砂粒 白色粒子 厚敷	淡灰色	やや不良	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。底部はやや丸味をもつ。	外：底部ヘラ切り後ナデ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	B9	X	内面に炭化物付着
59	杯A	4/5	12.5	3.0	7.5	微砂粒 白色粒子 厚敷	灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。底部はやや丸味をもつ。	外：底部ヘラ切り。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	B9	X	焼きムラ
60	杯A	1/5	13.6	3.3	7.5	微砂粒 白色粒子 厚敷	灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。底部はやや丸味をもつ。	外：底部ヘラ切り後ナデ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	C5	X	
61	杯A	1/8	13.9	-	9.2	微砂粒 白色粒子 厚敷	暗灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。底部はやや丸味をもつ。	外：底部ヘラ切り後ナデ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	D14	X	
62	杯A	1/2	11.8	3.6	9.0	微砂粒 白色粒子 厚敷	灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。底部はやや丸味をもつ。	外：底部ヘラ切り後ナデ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	D20	X	重ね焼き痕
63	杯A	3/5	11.3	3.3	8.4	微砂粒 白色粒子 厚敷	灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。底部はやや丸味をもつ。	外：底部ヘラ切り後ナデ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	D15	X	焼きムラ 歪み
64	高杯	1/10	19.0	-	-	微砂粒 白色粒子 厚敷	灰白色	良好	扁平な受部に径の太い脚部が付く。受部の口縁部は短く内側して開く。	外：受部回転ナデ。脚部回転ナデ。 内：受部回転ナデ。	B10	X	指城の為調整不明瞭

第4章 遺物

No	器種	残存率	口径	器高	胴径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
65	脚付 長頸瓶	3/4	-	-	160	小砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	球状の胴部にラッパ状の口縁部、 頸部が付く。底部にハの字に開く 絞差をもつ脚部が付く。頸部 に2条1組の平行沈線が2組、胴部 中に1組。胴部下位に1組の 沈線がめぐる。胴部	外：口縁部から胴部下位は回転 ナデ。底部は回転ナデ。 内：回転ナデ。	D12	X	胴部は歪む 器面粗い 自然軸付着
66	長頸瓶	2/3	120	-	158	微砂粒 白色粒子 精緻	暗灰色	良好	肩部が張る胴部にラッパ状の口 縁部、頸部が付く。胴部中に 2条の沈線がめぐる。胴部	外：口縁部から肩部は回転ナ デ。内：回転ナデ。	B9-10	X	口縁部内外面 に軸付着
No	器種	残存率	口径	器高	胴径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
67	台付 長頸瓶	1/2	-	-	162	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	肩部が張る胴部にラッパ状の口 縁部、頸部が付く。断面下字形と なる肩合は胴部内面が僅差し、 ハの字に開く。胴部中に2条の 沈線がめぐる。肩部に1条の沈線 がめぐる。胴部	外：口縁部から胴部下位は回転 ナデ。 内：回転ナデ。	B9	X	胴部と頸 部の内・外面、 肩部外面に 自然軸付着
68	脚付 長頸瓶	3/5	-	-	255	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰白色	良好	胴部は扁球状である。胴部中に 大きく張る。脚部はハの字に 開き、脚端部内面が接地する。 肩部に2条1組の沈線が2組あり、 沈線の間に斜点線状文がめ ぐる。胴部中に1条の平行 沈線と波状文がめぐる。胴部	外：肩部から胴部中に回転ナ デ。胴部下位は回転ヘラケ ズリ。脚部回転ナデ。 内：胴部ナデ。脚部回転ナ デ。	B9	X	口縁部、胴部 欠損
69	短頸瓶	1/5	6.0	5.6	108	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	口縁部は短く直立し、口唇部は 丸く収める。肩部は張り胴部は 扁球状である。胴部	外：口縁部から胴部下位は回転 ナデ。底部回転ナデ。 内：胴部回転ナデ。	C14-15 D14	X	焼きムラ 自然軸付着
70	短頸瓶	1/4	-	-	108	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	胴部は短く直立し、胴部は扁球 状で中心が張る。胴部	外：胴部上位は回転ナデ。胴部 下位はヘラケズリ。 内：胴部回転ナデ。	C9-11	X	自然軸付着
71	鉢	1/4	11.5	-	154	微砂粒 白色粒子 堅緻	黒褐色	良好	ワイングラス状の胴部に断面長 方形の襷状把手が付く。胴部中 位に3条平行沈線が入る。胴部	外：胴部回転ナデ。 内：胴部回転ナデ。	E32	X	焼きムラ 自然軸付着
72	広口鉢	3/5	24.0	17.0	24.7	微砂粒 白色粒子 堅緻	灰色	良好	口縁部は外方へ直立し、口唇部 は平直であり、下縁に1条の沈 線がめぐる。胴部はやや肩が張 り、台詰まりの形状である。胴 部下位に角状の把手が2つ付く。 胴部	外：口縁部から胴部下位までは 回転ナデ。底部ナデ。 内：回転ナデ。	B10	X	焼きムラ 底部に焼白 痕
73	横瓶	3/5	12.3	22.6	30.6	微砂粒 白色粒子 堅緻	暗灰色	良好	口縁部は外反して開き、口唇部 は二重口縁状に厚く整形されて いる。胴部側面は球形である。胴部	外：口縁部ヨコナデ、胴部テタ ナ。後方ナデ。 内：胴心円の当て具。	A9 B10	X	胴部接合部に 胴部内面全体 にナデ文 薄小口面に内 面取直し

I 区包含層出土 須臾器 (第34図、図版15・16)

Xは包含層を指す。単位はcm

No	器種	残存率	口径	器高	胴径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
64	杯A	5/6	13.3	3.7	4.5	微砂粒 白色粒子 精緻	青灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上 がり開く。胴部	外：底部ヘラ切り後ナデ。口縁 部回転ナデ。 内：回転ナデ。	F34	X	

I 区包含層出土 土師器 (第35図、図版16・17)

Xは包含層を指す。単位はcm

No	器種	残存率	口径	器高	胴径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
74	杯A	1/4	11.9	3.0	6.2	微砂粒 軟質	赤褐色	やや 不良	口縁部は外方へ直線的に開く。 胴部	内外：口縁部ココナデ	G14	X	外面に指環 注痕
75	杯A	1/4	13.4	4.1	7.5	微砂粒 軟質	赤褐色	良好	口縁部はやや内湾して開く。底 部は丸みをもつ。胴部	内外：口縁部ココナデ	E12	X	
76	杯A	1/4	14.6	4.1	11.0	微砂粒 軟質	淡灰褐色	不良	口縁部は外方へ直線的に開く。 底部はやや膨らむ。胴部	内外：口縁部ココナデ	E8	X	器面粗い
77	杯A	4/5	13.8	2.4	8.5	微砂粒 軟質	赤褐色	良好	器壁の薄い口縁部がやや内湾し て開く。底部は厚く平直。胴部	外：回転ナデ。底部ナデ。 内：回転ナデ。	E15	X	黒染
78	杯A	1/2	14.0	3.3	8.8	微砂粒 軟質	淡黄褐色	良好	口縁部はやや内湾して開く。底 部は厚くやや歪む。胴部	外：回転ナデ。底部ヘラ切り後ナ デ。内：回転ナデ。	E16	X	底部調整は 粗い
79	杯A	4/5	14.0	3.8	8.0	微砂粒 軟質	淡黄褐色	良好	口縁部は内湾して開く。胴部	外：回転ナデ。底部ナデ。 内：回転ナデ。	F12-13	X	摩耗
80	杯A	1/5	13.2	-	-	微砂粒 軟質	赤褐色	良好	口縁部は内湾して開く。口唇部 は玉縁状に外方へ屈曲する。胴部	内外：口縁部ココナデ	E14	X	
81	杯A	1/5	14.1	-	-	微砂粒 軟質	赤褐色	良好	口縁部は内湾して開く。口唇部 は玉縁状に外方へ屈曲する。胴部	内外：口縁部回転ナデ	F13-14	X	
82	杯A	3/5	15.8	3.5	10.5	微砂粒 軟質	赤褐色	良好	口縁部は内湾して開く。底部は 平直。胴部	外：回転ナデ。底部ヘラケズリ。 内：口縁部回転ナデ。	F13	X	赤影
83	杯A	1/4	14.0	3.0	8.5	微砂粒 軟質	赤褐色	良好	口縁部は外方へ直線的に開く。 底部は平直。胴部	外：回転ナデ。底部ヘラ切り後ナ デ。内：口縁部回転ナデ。底部暗文	E16 F16	X	赤影 内面底部に朱 の染文
84	碗	1/8	12.0	-	-	微砂粒 軟質	褐色	やや 不良	口縁部は内湾して上方へ立ち上 がる。胴部	内外：口縁部回転ナデ	E15	X	摩耗
85	碗	1/4	15.0	-	-	微砂粒 軟質	淡黄褐色	良好	口縁部は内湾して外方へ立ち上 がる。胴部	内外：口縁部ココナデ	E15	X	
86	碗	1/6	13.4	-	-	小砂粒 軟質	褐色	やや 不良	口縁部は外方へ直線的に開く。 底が深い。胴部	内外：外、口唇部回転ナデ後ナ デ。内：調整不明	E11	X	
87	高台	2/3	12.0	5.5	4.3	小砂粒 軟質	褐色	やや 不良	口縁部は内湾して開く。底部は 厚く平直。胴部	外：ナデ、ハナ。底部ヘラ切り後ナ デ。内：調整不明	E3	X	器面粗い

第1節 土器

No	器種	残存率	口径	器高	胴径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
88	甕	1/10	126	-	-	黄砂粒 白色粒子 灰黄	黄褐色	良好	口縁部はくの字に屈曲し開く。	内外：口縁部ヨコナテ	D5	X	
89	甕	1/10	146	-	-	小砂粒 白色粒子 灰黄	橙褐色	やや不良	口縁部は弱く外反し、口唇部は肥厚する。	外：口縁部ヨコナテ。胴部上位ハケ。 内：口縁部ヨコナテ。	E4	X	器面が粗い 摩耗
90	甕	1/3	120	-	-	小砂粒 白色粒子 灰黄	橙褐色	良好	口縁部は短く強く外反する。胴部中位が張る。	外：口縁部ヨコナテ。胴部ナテ。 内：口縁部ヨコナテ。胴部ヘラケズリ。	E2	X	器面が粗い 摩耗
91	甕	1/8	140	-	-	小砂粒 白色粒子 灰黄	橙褐色	やや不良	胴部は鋭く屈曲し、短い口唇部上端が上方へわずかに立ち上がる。胴部中位が張る。	外：口縁部ヨコナテ。胴部ナテ。 内：口縁部ヨコナテ。胴部ナテ。	F4	X	器面が粗い 摩耗
92	甕	1/2	160	21.5	(17.2)	小砂粒 白色粒子 赤色粒子 灰黄	灰褐色	やや不良	口縁部はくの字に鋭く屈曲し、口唇部は平坦に収める。胴部中位が張る。	外：口縁部ヨコナテ。胴部ナテ。 内：口縁部ヨコナテ。胴部弱いヘラケズリ。	F21	X	外面クナキ身と 底部内面に 屈曲
93	甕	1/5	160	-	17.8	小砂粒 白色粒子 赤色粒子 灰黄	淡橙褐色	やや不良	胴部はくの字に鋭く屈曲し、口唇部は幅の狭い口縁部になるように平坦に収める。胴部中位が張る。	外：口縁部一帯部はヨコナテ。胴部ハケ。 内：口縁部ヨコナテ。胴部ヘラケズリ。	D1-2	X	外面黒染
94	甕	約2/5	228	-	21.4	黄砂粒 灰黄	橙褐色	良好	胴部はくの字に屈曲し、口唇部は丸く収める。胴部は鈴薄形で中位が弱く張る。	外：口縁部一帯部はヨコナテ。胴部中位ハケ。胴部ナテ。 内：口縁部ヨコハケ。胴部上位ハケ。胴部中位ヘラケズリ。	F13-14 G12-13	X	

Ⅱ区包含層出土 土師器 (第35図)

Xは包含層を指す。単位はcm

No	器種	残存率	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
95	甕A	1/4	126	2.2	12.5	小砂粒 白色粒子 赤色粒子 灰黄	橙褐色	良好	口縁部は短く縦やかに内湾する。底部は平坦。	外：口縁部ヨコナテ。底部ナテ。 内：口縁部ヨコナテ。底部ナテ。	A20	X	
96	杯A	1/5	18.1	4.5	10.5	黄砂粒 白色粒子 灰黄	浅黄褐色	良好	口縁部は短く縦やかに内湾する。底部はやや丸みをもつ。	外：口縁部ヨコナテ。底部ナテ。 内：口縁部ヨコナテ。底部ナテ。	B10	X	摩耗
97	杯A	1/4	18.4	4.2	8.5	黄砂粒 白色粒子 灰黄	褐色	不良	口縁部は短く縦やかに内湾する。底部は平坦。	外：口縁部ヨコナテ。底部ナテ。 内：口縁部ヨコナテ。底部ナテ。	D13	X	器面が粗い 摩耗
98	杯A	1/5	15.2	4.0	9.0	黄砂粒 赤黄	浅黄褐色	良好	口縁部は短く縦やかに内湾する。底部は平坦。	外：口縁部ヨコナテ。底部ナテ。 内：口縁部ヨコナテ。底部ナテ。	B10	X	
99	杯A	1/5	18.9	3.6	12.0	黄砂粒 白色粒子 灰黄	褐色	不良	口縁部は内湾して立ち上がる。底部は平坦。	外：口縁部ヨコナテ。底部ナテ。 内：口縁部ヨコナテ。底部ナテ。	B10	X	

Ⅲ区包含層出土 土師器 (第35図)

Xは包含層を指す。単位はcm

No	器種	残存率	口径	器高	胴径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
102	甕	1/10	232	-	24.0	黄砂粒 白色粒子 赤色粒子 灰黄	橙褐色	不良	口縁部はくの字に屈曲し、口唇部は丸く収める。	外：口縁部ヨコナテ。胴部ハケ。 内：口縁部ヨコナテ。胴部ヘラケズリ。	D30	X	器面が粗い 摩耗
103	甕	1/10	33.6	-	30.5	黄砂粒 白色粒子 灰黄	褐色	不良	胴部はくの字に屈曲し、口唇部は平坦に収めて斜め外方へ向けられる。	外：口縁部ヨコナテ。胴部張り不明。 内：口縁部ヨコナテ。胴部調整不明。	C25 D25	X	器面が粗い 摩耗

Ⅳ区包含層出土 弥生土器 (第35図、図版第17)

Xは包含層を指す。単位はcm

No	器種	残存率	口径	器高	胴径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
100	高杯	1/5	17.1	-	-	小砂粒 白色粒子 赤色粒子 灰黄	橙褐色	やや不良	受部は内湾して立ち上がり、口縁部は外方へ屈曲する。口唇部は短く立ち上がる。	外：口縁部ヨコナテ。底部ナテ。 内：口縁部ヨコナテ。底部ナテ。	B6	X000	器面が粗い X000 黒染 脚部欠損
101	高杯	3/5	-	-	15.8	小砂粒 白色粒子 赤色粒子 灰黄	橙褐色	やや不良	受部は内湾して立ち上がる。胴部はハの字に開き、肩帯部は肥厚する。	受部外：ナテ。底部ナテ。内：ナテ。 胴部外：ナテ。底部ナテ。内：ナテ。	C1	X	器面が粗い 摩耗

Ⅰ区遺構出土 須恵器 (第36図、図版第17-18)

Xは包含層を指す。単位はcm

No	器種	残存率	口径	器高	天井径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考
104	杯B甕	1/1	15.9	3.3	11.0	黄砂粒 白色粒子 灰黄	暗灰色	良好	天井部はやや凹む。器高は高い。フマミは扁平輪宝珠。口縁部は厚く天井部の輪縁は不明瞭。	外：天井部回転ヘラ切り後ナテ。 内：天井部中央ナテツケ。回転ナテ。	D21	P153
105	杯B甕	2/3	16.6	3.4	11.3	黄砂粒 白色粒子 灰黄	暗灰色	良好	天井部はやや丸みをもち、器高は高い。フマミは扁平輪宝珠。口縁部は直線的に開く。天井部の輪縁は不明瞭。口唇部は短く下方へ屈曲する。	外：天井部回転ヘラ切り後ナテ。 内：回転ナテ。	F20 F20 E20 F19	SK123 SL2 黒11 SK125
106	杯B甕	2/3	16.0	3.6	9.0	黄砂粒 白色粒子 灰黄	灰色	やや不良	天井部はやや丸みをもち、器高は高い。フマミは扁平輪宝珠。口縁部は直線的に開く。天井部の輪縁は不明瞭。口唇部は短く下方へ屈曲する。	外：天井部回転ナテ。 内：回転ナテ。天井部ナテツケ。	E19 F19	X SL3 SW1
107	杯B甕	1/3	15.8	-	10.6	黄砂粒 白色粒子 暗黄	灰色	良好	天井部はやや丸みをもち、器高は高い。口縁部はやや内湾して開く。天井部の輪縁は不明瞭。口唇部は短く下方へ屈曲する。	外：天井部回転ナテ。 内：回転ナテ。	E12 E12	X SR2P2

第4章 遺物

No	器種	残存率	口径	器高	胴径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
108	杯B	4/5	17.2	-	11.5	微砂状 白色粒子 層織	明灰色	良好	天井部は平坦、器高が高い。口縁部は直線的に開く。天井部の稜線はやや不明瞭。口唇部は下方へ強く屈曲する。	外：天井部回転ヘラナズリ後ナデ。内：回転ナデ。底部シツタ痕。	F19 SK117 F19 X	フタミ欠損 摩耗	
109	短脚壺 蓋	2/3	11.4	4.8	9.3	微砂状 白色粒子 層織	暗灰色	良好	天井部はやや平坦。フタミは扁平で直線。器高は高い。口縁部は天井部から斜曲し直線的に開く。天井部の稜線はやや不明瞭。口唇部はやや肥厚する。	外：天井部回転ナデ。内：回転ナデ。	F19-20	SL2	蓋み
No	器種	残存率	口径	器高	胴径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
110	杯B	2/3	15.0	5.1	10.3	微砂状 白色粒子 層織	明灰白色	やや 不良	口縁部はやや丸味をもつて内湾して外方へ立ち上がり開く。底部中央の器底は厚く膨らみ、高台接地面が安定しない。	外：底部ナデ。口縁部回転ナデ。内：回転ナデ。	F19-21	SL2	摩耗
111	杯B	1/3	14.6	4.2	11.1	微砂状 白色粒子 層織	淡灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。高台接地面は内側だけへの字に膨らむ。	外：底部ナデ。口縁部回転ナデ。内：回転ナデ。	F19	SK125	
112	杯B	4/5	12.9	3.9	9.2	微砂状 白色粒子 層織	暗灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。高台接地面は内側だけへの字に膨らむ。	外：底部ヘラ切り後ナデ。口縁部回転ナデ。内：回転ナデ。	F20 F20 X SK122	X SK122	焼きムラ
113	杯B	2/5	10.2	4.1	6.8	微砂状 白色粒子 層織	暗灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。高台接地面は内側だけへの字に膨らむ。	外：底部ナデ。口縁部回転ナデ。内：回転ナデ。	E11 F19	X SD10	
114	杯A	2/3	12.7	3.7	9.4	微砂状 白色粒子 層織	暗灰色	良好	口縁部はやや反して立ち上がり開く。底部は歪む。	外：底部ヘラ切り後ナデ。口縁部回転ナデ。底部ナデツケ。		SL2	蓋み
115	杯A	1/1	13.0	3.8	9.7	微砂状 白色粒子 層織	青灰色	良好	口縁部はやや反して立ち上がり開く。底部はやや膨らむ。	外：底部ヘラ切り。口縁部回転ナデ。内：回転ナデ。底部ナデツケ。		SL2	
116	杯A	2/3	11.4	3.2	7.7	微砂状 白色粒子 層織	灰色	良好	口縁部はやや反して立ち上がり開く。底部は平坦。	外：底部ヘラ切り。口縁部回転ナデ。内：回転ナデ。	F19	SL1	
117	杯A	1/5	13.6	3.5	7.7	微砂状 白色粒子 層織	暗灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。底部は平坦。	外：底部ヘラ切り後ナデ。口縁部回転ナデ。内：回転ナデ。	E18 F19-19	X SL1	自然輪付着
118	杯A	1/4	13.0	3.8	8.0	微砂状 白色粒子 層織	淡灰色	やや 不良	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。底部は平坦。	外：底部ヘラ切り後ナデ。口縁部回転ナデ。内：回転ナデ。	F19 F19 X E21	SK117 SK118 X X	
119	杯A	1/1	16.1	4.8	10.5	微砂状 白色粒子 層織	淡橙褐色	不良	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり開く。底部は平坦。	外：底部ヘラ切り後ナデ。口縁部回転ナデ。内：回転ナデ。	F19	SL1	生焼け
No	器種	残存率	口径	器高	胴径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
120	壺	1/10	18.6	-	-	微砂状 白色粒子 層織	暗灰色	良好	口縁部は反反し、口唇部は鋭い三角形状に肥厚する。	内外：口縁部回転ナデ	SW1	自然輪付着	
121	台付 長頸瓶	2/3	-	-	16.5	微砂状 白色粒子 層織	灰色	良好	胴部は扁球形で上位の肩が張る。高台はハの字に膨らみ張り、台端部が接地する。	外：肩部から胴部上位は回転ナデ。胴部下位は回転ヘラナズリ。肩部回転ナデ。底部ナデ。胴部回転ナデ。脚部回転ナデ。	D1 E1	SD6 SD8	肩部に自然 輪付着 高台歪み
122	台付 長頸瓶	2/3	-	-	17.6	微砂状 白色粒子 層織	暗青灰色	良好	胴部は扁球形で上位の肩が張る。高台はハの字に膨らみ張り、台端部は底面をもつて接地する。	外：胴部中位～下位は回転ナデ。胴部回転ナデ。脚部回転ナデ。	SW1		肩部欠損 肩部に自然 輪付着
123	広口壺	1/1	11.4	19.1	20.2	微砂状 白色粒子 層織	青灰色	良好	口縁部は上方に傾く立ち上がり、口唇部は外方へ肥厚する。胴部上位の肩が張る。底部が平坦。	外：口縁部～胴部下位は回転ナデ。内：回転ナデ。	F19	SK117	内面に自然 輪付着
124	壺	1/10	41.2	-	-	微砂状 白色粒子 層織	淡灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ伸びて開く。口唇部は丸く収まる。口縁部中央の平行筋が認められる。	内外：口縁部回転ナデ	D4	SD3	
125	壺	1/6	-	-	40.2	微砂状 白色粒子 層織	灰色	良好	扁球形の胴部は、上位が大きく張る。胴部下位に腕状の把手が2つ付く。	外：肩部ナデ。胴部中位から下位はタタキ後カキメ。内：当て貝痕。	F11 F11-12 SK1 X	X SK1 X	

I 区遺構出土遺物 土師器 (第37図、図版18)

No	器種	残存率	口径	器高	胴径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
127	壺	1/10	13.9	-	-	小砂状 白色粒子 赤色粒子 軟質	橙褐色	やや 不良	口縁部は短くくの字に屈曲し、口唇部は丸く収める。胴部中位でやや膨らむ。	外：ナデ。内：ナデ。	F19 F19	SK125 SK125	摩耗
130	壺	1/10	15.2	-	15.1	微砂状 白色粒子 層織	橙褐色	良好	口縁部はくの字に屈曲し、口唇部は丸く収める。胴部は肩が張らない。	外：口縁部ヨコナデ。胴部ハケ後ナデ。内：ヘラナズリ。	F20	SK123	
131	壺	1/5	13.3	-	13.2	微砂状 白色粒子 層織	橙褐色	良好	口縁部は短くくの字に屈曲し、口唇部は丸く収める。胴部は肩が張らない。	外：口縁部ヨコナデ。胴部ハケ後ナデ。内：ナデ。	F19 F20	SK125 SK123	
133	壺	1/10	17.2	-	17.0	微砂状 層織	橙褐色	良好	口縁部は短く反反し、口唇部は丸く収める。胴部中位でやや膨らむ。	外：口縁部ヨコナデ。胴部ハケ内：胴部上位～中位ヨコハ。	F20	SK122	内面スス付着
134	壺	1/6	25.0	-	23.8	小砂状 白色粒子 赤色粒子 軟質	橙褐色	良好	口縁部はくの字に屈曲し、口唇部は丸く収まる。胴部中位でやや膨らむ。	外：口縁部ヨコナデ。胴部上位ハケ。胴部中位ナデ。内：胴部上位～中位ヘラナズリ。	F19 F10 F14	SK125 SL1 SK34	

Xは包含層を指す。単位はcm

第1節 土器

I 区遺構出土遺物 弥生土器 (第37図、図版第18・19)

Xは包含層を指す。単位はcm

No	器種	残存率	口径	器高	胴径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
126	甕	1/4	148	-	142	小砂粒 白色粒子 灰質	橙褐色	不良	口縁部は短く屈曲し、口唇部は丸く収める。胴部上位から下位にかけて穿する。	外：口縁部ナデ。胴部上位ハケ。内：ハケ後ナデ。	E6 E7 E9	P55 X X X	外面黒炭 外面被熱 器面粗い 磨耗
128	甕	1/4	138	18.4	156	微砂粒 白色粒子 灰質	淡褐色	良好	口縁部は短くくの字に屈曲し、口唇部は外方へ小さく折る。胴部中位で膨らみ、底部にかけて穿する。	外：口縁部ナデ。胴部ハケ後ナデ。底部ハケ。内：ヘラズリ。	F15	SL1 SK98	器面平滑 外面黒炭
129	甕	1/8	172	-	158	小砂粒 白色粒子 赤色粒子 灰質	橙褐色	やや不良	口縁部はゆるやかなくの字に屈曲し、口唇部は丸く収める。胴部は前方が膨らまない。外：口縁部ナデ。	胴部ハケ後ナデ。底部ハケ。内：ハケ後ナデ。胴部に鉛筆状縦文。	F6	P61	内面スス付着
132	甕	1/5	145	-	162	小砂粒 白色粒子 赤色粒子 灰質	淡灰褐色	不良	口縁部は短く外反し、口唇部は丸く収める。胴部中位でやや膨らむ。	外：口縁部ヨコナテ。胴部ハケ後ナデ。内：ハケ後ナデ。	6	P61	外面被熱 黒炭
135	甕	3/4	188	25.1	200	小砂粒 白色粒子 赤色粒子 灰質	橙褐色	良好	胴部は鋭角に屈曲し、口唇部は平坦面をもつ。胴部上位でやや膨らむ。	外：口縁部ヨコナテ。胴部上位ハケ。胴部中位ナデ。内：口縁部ヨコナテ。胴部上位に中央へハケズリ。	F15 F18	SK88 P15	外面被熱 黒炭 スス付着
136	甕	1/2	228	24.3	194	小砂粒 白色粒子 赤色粒子 灰質	橙褐色	良好	口縁部はくの字に屈曲し、口唇部はやや内湾する。口唇部に細目文がめぐる。胴部中位はやや膨らむ。底部は穿り、中央に径5mmの穿孔あり。焼成後穿孔。	外：口縁部タテハケ。胴部上位タテハケ。内：口縁部ヨコナテ。胴部中位ヨコナテ後2条の度	F6	P60	外面被熱 器面粗い 内外面スス付着
137	甕	2/3	204	24.7	178	小砂粒 白色粒子 赤色粒子 灰質	灰黄褐色	良好	口縁部は外反し、口唇部下端に扇目文がめぐる。胴部上位がやや膨らむ。底部は穿り、中央に凹みをもつ。	外：口縁部タテハケ。胴部上位に扇目文と刺突文がめぐる。胴部中位タテハケ。	D21	SK132	内外面に黒炭 外面被熱 器面粗い
138	甕	1/4	181	(19.5)	158	小砂粒 白色粒子 赤色粒子 灰質	橙褐色	やや不良	口縁部は強く外反し、口唇部は丸く収める。胴部中位がやや膨らむ。底部は穿り、中央に径10mmの穿孔あり。	外：口縁部タテハケ。胴部ハケ。内：胴部磨耗。	D21	SK132	磨耗 器面粗い 底部被熱
139	空	2/3	150	33.9	240	小砂粒 白色粒子 赤色粒子 灰質	橙褐色	良好	口縁部は外反し、口唇部は端部をもって膨らまれる。胴部中位が膨らむ。底部は平底で穿する。	外：口縁部ナデ。胴部タテハケ。胴部上位に扇目文の連続的組織めぐり、その間に2条の扇目文がめぐる。胴部中位は2条の連続扇目文がめぐる。磨成はタテハケ。内：胴部上位ヘラナデ。磨耗。	F6	P62	胴部中位に黒炭 器面粗い

II 区遺構出土遺物 須恵器 (第38図、図版第19)

Xは包含層を指す。単位はcm

No	器種	残存率	口径	器高	天井径	胎土	色調	焼成	形状・文様	調整	出土地点	備考	
140	杯形蓋	1/3	15.4	3.2	7.7	微砂粒 白色粒子 灰質	灰色	良好	天井部は丸みをもつ。口縁部は直線的に伸びる。天井部は高台状フタミが付く。天井部の後縁は不明瞭。口唇部内側にカニをもち、丸く収める。	外：天井部回転ヘラナゲリ後回転ナデ。フタミ貼付時のナゲリ。内：回転ナデ。	C3	SD5	後縁の蓋縁きムラ
141	杯形蓋	2/5	15.8	3.4	11.3	微砂粒 白色粒子 灰質	灰色	良好	天井部はやや丸みをもつ。フタミは扇形宝珠。口縁部はやや丸みをもつ。天井部の後縁は不明瞭。口唇部は短く下方へ屈曲する。	外：天井部回転ナデ。内：回転ナデ。	B9 B9 C9	SK1 SK2 X	自然輪付着
142	杯形蓋	1/3	15.6	3.8	8.0	微砂粒 白色粒子 灰質	灰色	良好	天井部は平坦気味であり、器高は高い。口縁部は直線的に開く。天井部の後縁は不明瞭。口唇部はやや端部をもって収める。	外：天井部ナデ。口縁部回転ナデ。内：回転ナデ。	A9 B9	SD4 SD4	
143	杯形蓋	3/4	16.8	4.0	8.8	微砂粒 白色粒子 灰質	灰色	良好	天井部は中央はやや凹む。フタミは扇形宝珠。口縁部はやや丸みをもつ。口唇部と天井部の後縁は不明瞭。口唇部は短く下方へ屈曲する。	外：天井部回転ヘラナゲリ後回転ナデ。内：回転ナデ。	B14	SD6	自然輪付着 磨正なつくり
144	杯形蓋	1/5	16.0	3.3	10.0	微砂粒 白色粒子 灰質	灰色	良好	天井部はやや丸みをもつ。フタミはボタン状観宝珠。口縁部はやや丸みをもつ。天井部の後縁は不明瞭。口唇部は短く下方へ屈曲する。	外：口縁部回転ナデ。内：口縁部回転ナデ。	B14	SD5	
145	杯形蓋	3/4	15.1	2.4	8.0	微砂粒 白色粒子 灰質	灰色	良好	天井部は中央は凹む。フタミは扇形宝珠。口縁部はやや丸みをもつ。口唇部と天井部の後縁は不明瞭。口唇部は短く下方へ屈曲する。	外：天井部回転ヘラナゲリ後回転ナデ。フタミ貼付時のナゲリ。内：回転ナデ。	C3	SD6 N02	自然輪付着
146	杯形蓋	1/2	17.5	3.4	8.5	微砂粒 白色粒子 灰質	灰色	良好	天井部は平坦気味であり、フタミは扇形宝珠。口縁部は直線的に開く。天井部の後縁は不明瞭。口唇部は短く下方へ屈曲する。	外：天井部回転ヘラナゲリ後回転ナデ。フタミ貼付時のナゲリ。内：回転ナデ。	A9	SD4	
147	杯形蓋	2/5	14.8	-	9.0	微砂粒 白色粒子 灰質	灰色	良好	天井部は平坦気味であり、口縁部は直線的に開く。天井部の後縁は不明瞭。口唇部は短く下方へ屈曲する。	外：天井部回転ヘラナゲリ後回転ナデ。内：回転ナデ。	C3	SD6 N08	

第4章 遺物

No	器種	残存率	口径	器高	底径	胎土	色調	質感	形状・文様	調整	出土地点	備考
148	杯B	1/3	16.4	4.3	11.0	微砂粒 白色粒子 積載	暗灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上がり が円く。高台接地面は内側だけ でハの字に踏み張る。	外：底部凹へラ切り後ナデ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	A9 SD4	
152	杯A	2/5	13.9	4.2	7.0	微砂粒 白色粒子 積載	暗灰色	良好	口縁部はやや内湾して外方へ立ち 上がり円く。口唇部に浅い底面をも つ。底部はやや膨らむ。	外：底縁凹へラケズリ後ナデ。 ハケ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	SD6 X006 N09	表面粗い
154	杯A	1/4	11.4	3.9	7.7	微砂粒 白色粒子 積載	青灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上 がり円く。底部は膨らむ。	外：底部凹へラ切り後ナデ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	B14 SD4	
155	杯A	2/3	12.1	4.2	8.5	微砂粒 白色粒子 積載	灰褐色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上 がり円く。底部は膨らむ。	外：底部凹へラ切り後ナデ。 口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	B9 SK1	
157	杯B	1/5	15.3	3.8	11.0	微砂粒 白色粒子 積載	灰褐色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上 がり円く。口唇部は丸く収める。 底部は平直。	外：底部凹へラケズリ、口縁部 回転ナデ。 内：回転ナデ。	B10 SD4	高台欠損
No	器種	残存率	口径	器高	胴径	胎土	色調	質感	形状・文様	調整	出土地点	備考
159	平瓶	2/3	15.5	-	20.8	微砂粒 白色粒子 積載	灰色	良好	肩が張る扁球形の胴部に大きな口 縁部が接合する。口縁部は直線的 に外方へ伸びる。口縁部中位と胴 部に浅い1条の沈線がのこる。	外：口縁部回転ナデ。胴部ナデ。 内：回転ナデ。	C3 SD6 X006	肩中央径 4cm円穴 穴内閉塞後 に口縁部接 合

Ⅱ区遺構出土 須器類 (第38回、図版第19)

No	器種	残存率	口径	器高	底径	胎土	色調	質感	形状・文様	調整	出土地点	備考	
149	碗B	2/3	13.0	4.7	7.1	微砂粒 白色粒子 積載	灰色	良好	口縁部は内湾して外方へ立ち上 がり円く。口唇部に浅い底面をも つ。高台接地面はハの字に踏み張る。	外：底部回転ナデ。口縁部回転ナ デ。 内：回転ナデ。	F31 G31	SD6 SD8	矯正
150	杯A	1/2	14.3	4.6	10.0	微砂粒 白色粒子 積載	灰黄色	不良	口縁部は直線的に外方へ立ち上 がり円く。底部はやや膨らむ。	単純のため調整不明。	D28	SD5	表面粗い
151	杯A	1/4	14.2	4.1	9.3	微砂粒 白色粒子 積載	灰色	良好	口縁部は直線的に外方へ立ち上 がり円く。底部はやや膨らむ。	外：底部ナデ。口縁部回転ナデ。 内：回転ナデ。	D28 E28	SD5 X II	表面粗い 摩耗

Ⅱ区遺構出土 土師器 (第38回、図版第19-20)

No	器種	残存率	口径	器高	胴径	胎土	色調	質感	形状・文様	調整	出土地点	備考	
153	皿A	1/4	15.8	2.6	6.0	微砂粒 白色粒子 積載	褐色	やや 不良	口縁部はやや内湾して円く。口 唇部は外方へやや屈曲する。底 部は丸みをもつ。	内外：口縁部ユビナデ	B9 B10	SD4 SD4	底部外面摩耗
156	碗A	2/5	11.5	3.9	1.0	小砂粒 白色粒子 積載	褐色	良好	口縁部は内湾して円く。口唇部 は丸く収める。底部は丸みをも つ。	外：口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 内：ナデ。	B9	SK2	表面粗い
158	杯A	1/2	17.9	4.2	10.0	微砂粒 白色粒子 積載	浅黄褐色	不良	口縁部は直線的に外方へ立ち上 がり円く。口唇部は丸く収める。 底部はやや膨らむ。	外：口縁部ヨコナデ。底部ナデ。 内：ナデ。	B9-10	SD4	単純

Ⅱ区遺構出土 土師器 (第38回、図版第19-20)

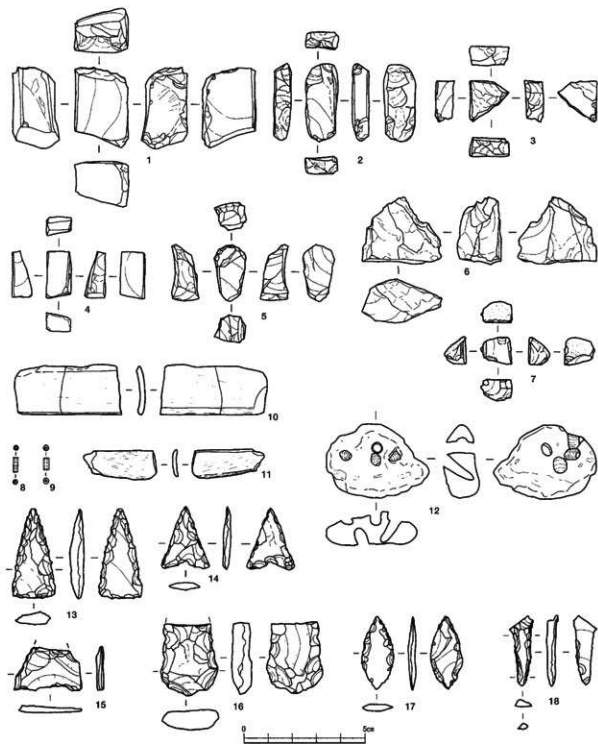
No	器種	残存率	口径	器高	胴径	胎土	色調	質感	形状・文様	調整	出土地点	備考	
160	甕	1/3	20.8	-	26.7	微砂粒 白色粒子 積載	橙褐色	良好	口縁部はくの字に屈曲し、口唇 部は丸く収める。胴部は球形で 中位が張る。	外：口縁部ヨコナデ、胴部タテハケ。 内：口縁部ヨコナデ、胴部ヨコハケ。	D28 D31 D28	SD5 SD1 X003 X004	屈曲

Ⅱ区遺構出土 赤生土器 (第38回、図版第20)

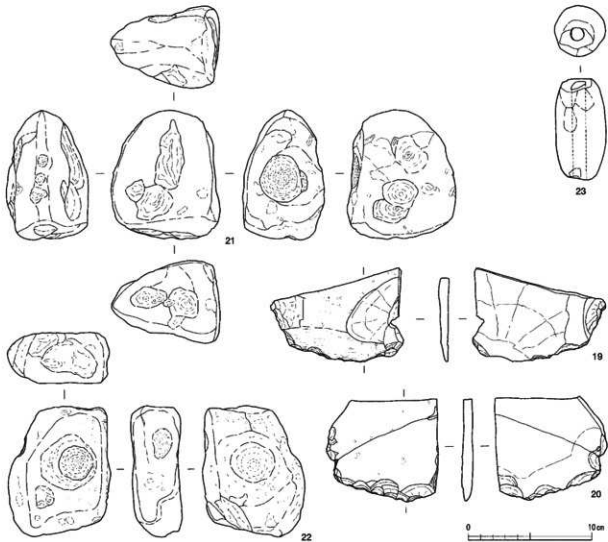
No	器種	残存率	口径	器高	胴径	胎土	色調	質感	形状・文様	調整	出土地点	備考	
161	壺	1/3	19.4	-	24.5	微砂粒 白色粒子 積載	赤褐色	良好	口縁部は大きく外反して開き、 口唇部は肥厚する。胴部中位が 張る。	調整不明	B3	SD9 NO1 -3	口縁部・胴部 内外面黒炭 摩耗著しい
162	壺	2/3	14.5	-	18.0	小砂粒 白色粒子 積載	橙褐色	不良	口縁部は緩やかに外反する。胴部中 位でやや膨らむ。口唇部に節目が あたる。胴部から肩部にかけて節 文が凸入り。その間に縦紋文、波 状文、半條同心文が押入される。	外：口縁部ハケ。胴部ハケ後ナデ。 内：口縁部ナデ。胴部ハケ後ナデ。	B23	SK20	表面粗い 内外外面黒炭
163	甕	2/3	13.7	22.6	14.4	微砂粒 白色粒子 積載	橙褐色	不良	口縁部は緩やかに外反する。胴 部中位でやや膨らむ。底部は常 まる。口唇部に節目が2段入 り。間に波状文が入る。	外：口縁部ハケ。胴部上位タテハケ。 胴部ヨコナデハケ。 内：口縁部ハケ。胴部上位ヨコハケ。 胴部中位タテハケ。	C8	SK4	表面粗い 内外外面黒炭 外面黒炭
164	甕	1/8	21.4	-	17.8	微砂粒 白色粒子 積載	橙褐色	不良	口縁部は緩やかに外反する。胴 部中位でやや膨らむ。底部は常 まる。胴部上位に縦溝文が2段 入り。間に波状文が入る。	外：口縁部ハケ。胴部下位ナメ ハケ。 内：ナデ。	D9	F30	内外外面黒炭 底部外面黒炭
165	甕	2/5	25.8	-	22.6	小砂粒 白色粒子 積載	橙褐色	不良	口縁部は緩やかに外反する。胴 部中位でやや膨らむ。口唇部に 節目があたる。	外：口縁部ハケ。胴部ハケ。 内：胴部ヨコハケ。胴部上位-中 位ナデ。	B23	SK20	表面粗い 内外外面黒炭
166	甕	3/5	23.2	29.8	21.7	小砂粒 白色粒子 積載	橙褐色	不良	口縁部は緩やかに外反する。胴 部上位でやや膨らむ。底部は常 まり。中央に径6mmの穿孔あり。 口唇部に節目が入る。	外：口縁部ハケ。胴部ハケ。 内：口縁部-胴部ヨコハケ。胴部 上位-底部ナデ。	D10	SK6	内外外面黒炭 底部黒炭 底部黒炭に直線 表面粗い
167	無蓋甕	1/3	9.5	10.9	12.4	小砂粒 白色粒子 積載	橙褐色	不良	胴部は扁球形で上位の肩が張る。 底部は常まり平直になる。口縁部 に2箇所の紐通し用の穿孔が入る	外：口縁部ハケ。胴部ハケ。 内：ナデ。	C4	SK22	表面粗い 内外外面黒炭

第2節 その他の遺物 (図版第21図、第39・40図)

I～III区で出土した土器以外のその他の遺物は、弥生時代中期に属すると考えられる玉作り関連遺物1-12、石鏃13-17、石鎌18、石廬丁19・20、不明石器21・22、土錘23である。詳細は第3表に記載した。また、I区SW1内の井戸枠については、樹種鑑定をした4点は図版第21に掲載した。



第39図 玉作り関連遺物、石鏃、石鎌 (縮尺2:3)



第40図 石砲丁、不明石器、土鏃 (縮尺2:3)

第3表 その他の遺物観察表

No	種類	特別	材質	長さ	幅	厚さ	遺存	形状	出土地点	
1	土作り陶連遺物	形制不明品	緑色凝灰岩	3.3	2.2	1.8	完全形	網柄調整	Ⅱ区/C3	X
2	土作り陶連遺物	形制不明品	緑色凝灰岩	3.2	1.5	0.7	完全形	網柄調整	Ⅰ区/P6・7	X
3	土作り陶連遺物	形制不明品	緑色凝灰岩	1.7	1.6	0.8	完全形	網柄調整	Ⅰ区	X
4	土作り陶連遺物	形制不明品	緑色凝灰岩	1.9	1.0	0.8	完全形	網柄調整	Ⅰ区/E17	X
5	土作り陶連遺物	形制不明品	緑色凝灰岩	2.3	1.3	1.1	完全形	網柄調整	Ⅱ区/T8	X
6	土作り陶連遺物	形制不明品	緑色凝灰岩	2.7	3.2	1.8	完全形	網柄調整	Ⅰ区/P7	P38
7	土作り陶連遺物	形制不明品	緑色凝灰岩	1.1	1.2	0.9	下半欠	網柄調整	Ⅱ区/B13	X
8	土作り陶連遺物	管玉	緑色凝灰岩	0.6	0.2	-	完全形	網柄調整	Ⅰ区	X
9	土作り陶連遺物	碧玉	緑色凝灰岩	0.5	0.2	-	完全形	網柄調整	Ⅰ区	X
10	土作り陶連遺物	玉鏃	片岩	2.1	4.2	0.2	右半欠	網柄調整	Ⅰ区/E15	SK99
11	土作り陶連遺物	玉鏃	片岩	1.2	2.9	0.2	右半欠	網柄調整	Ⅰ区/P6	P62
12	土作り陶連遺物	磁石	両面に複数の孔あり	3.0	4.1	1.3	完全形	網柄調整	Ⅱ区	X
No	種類	特別	形状	材質	長さ	幅	厚さ	遺存	出土地点	
13	石器	石鏃	両面調整 三角形平扁	3.7	1.8	0.6	完全形	網柄調整	Ⅱ区	X
14	石器	石鏃	両面調整 三角形凹形	2.5	2.0	0.3	完全形	網柄調整	Ⅱ区	X
15	石器	石鏃	両面調整 三角形平扁	1.8	2.8	0.3	先端欠	網柄調整	Ⅱ区/C23	X
16	石器	石鏃	両面調整 長身凸基	2.9	2.3	0.8	先端欠	網柄調整	Ⅰ区/P8	X
17	石器	石鏃	両面調整 両面凸基	3.0	1.3	0.3	完全形	網柄調整	Ⅱ区/C3	X
18	石器	石鏃	石鏃	2.8	0.9	0.4	完全形	網柄調整	Ⅰ区	X
19	石器	石砲丁	石砲丁	6.7	10.2	0.7	部欠	網柄調整	Ⅲ区/C25	X
20	石器	石砲丁	石砲丁	8.0	8.8	0.8	部欠	網柄調整	Ⅲ区/C25	X
21	石器	不明石器	不明石器	10.2	8.5	6.5	完全形	網柄調整	Ⅲ区/E24	SK1
22	石器	不明石器	不明石器	10.1	7.9	3.9	完全形	網柄調整	Ⅲ区/C10	SK7
No	種類	特別	形状	長さ	幅	孔径	遺存	出土地点		
23	土鏃	土鏃	管状	8.1	4.0	1.1	完全形	網柄調整	Ⅱ区/C15	X

第5章 まとめ

第1節 遺構・遺物のまとめ

・奈良-平安時代の菅谷烏帽子遺跡

I～Ⅲ区の主要遺構を概観すると、堅穴住居としてはI区のSH1が唯一検出され、SB5に切られている。堆積土から掘立柱建物と時期を隔てないものと考えられる。長方形という特殊な形状から推察すると、家族が一定期間居住するような家屋ではなく、作業小屋のような施設と考えられる。

掘立柱建物は、I～Ⅲ区を通して計16棟になり、形状と規模から、長方形の小型タイプ(SB1・14・15)、中型タイプ(SB8-10・12・13)、大型タイプ(SB2・3)と、方形の小型タイプ(SB6・11)、中型タイプ(SB5・7)、不明(SB16)に分けられる。

掘立柱建物に伴う遺物としては、SB2の柱穴P2から杯B蓋107が出土し、SB12-14・16の柱穴から須恵器、土師器の細片が出土した。他の掘立柱建物において遺物は確認できなかったが、北東から南西の方向に傾きをもって、ほぼ同一方向に建てられていること、柱穴内の堆積土と包含層の土質に顕著な差が見られない点などから、掘立柱建物は、8世紀代を中心に構築された建物群と考えられる。

建物の機能については、SB2・3に見られる長方形の大型タイプは物資を収める倉庫であった可能性が高い。長方形や方形の中型タイプは、家屋のような構造をとっていたかもしれないが、家族が常時居住した生活の場所と想定するには、遺物量が少ない。小型のタイプは、大・中型に付随する簡易的な小屋と考えられる。

建物群が全体が占める面積は、南北50m以内に限定されており、掘立柱建物を住居とするには、生活に伴う、同時期の遺物を含む廃棄土坑がSK1・2以外に確認できず、一般生活集落とは異なる佇まいを呈していた。

井戸SW11は、掘立柱建物に伴って構築されたものと考えられ、井戸枠は、良質の分厚いスギ板を蒸籠状に組み上げた入念な作りであった。井戸底から検出された胴部のみ長頸瓶122は、祭祀品の可能性があり、公的な管理を受けた遺構と見られる。SL1、SW2、SL2も須恵器を伴い、本来は、SW1のような井戸を構築する目的で掘削しようとしたが、なんらかの事情で構築が中止されたのであろう。

I区SD5とⅡ区SD6は同一の溝であり、I区SD5からは台付長頸瓶121が出土し、Ⅱ区SD6上では大甍が大量に検出された。I区SD5とⅡ区SD6は、掘立柱建物群の主軸と直交して南東から北西に伸び、掘立柱建物群と関連する区画溝と考えられる。

Ⅱ区SD6上の大甍破片は、区画溝が埋没した後に廃棄されたものであるが、溝の方向に沿って廃棄された出土状況から、区画溝を人為的に埋めなければならない事態が生じ、区画溝に付与されていた機能を、祭祀的行為で代償としたのかもしれない。

Ⅱ区SD10、Ⅲ区SD10も同一の溝であり、掘立柱建物群の主軸に沿って南西から北東に伸び、掘立柱建物群を囲む区画溝と考えられる。

以上の遺構は、8世紀代に属し、その様相は、生活の場として、居住を前提とした一般集落というより、ある特定の機能を担って構築された公的な建物群と捉えられる。区画溝を備えていることを積極的に評価すれば、これらの建物群は、奈良時代、当地に置かれていたとされる東大寺領「鴨野荘」の経営に関連する建物群ではないかと有力視される。

・弥生時代の菅谷烏帽子遺跡

弥生時代の遺構は、Ⅰ区ではP15、P55・60・61・62、SK98・132などが検出されたが、小規模な穴や形状が不明瞭な遺構が多い。遺物は、弥生時代中期の甕が主体となっている。P38、P62、SK99からは、荒割未製品や玉鋸といった玉作り関連遺物が検出され、包含層からは完成品の管玉2点も出土しており、これらも同時期に属するものと捉えられる。

Ⅱ区では、P30、SK4・6・20・22、SD9などの土坑、溝から、弥生時代中期の甕、壺が検出された。SK6・7とSK19・20は、土坑の検出状況と土器の出土状況が類似しており、各々、近親者の埋葬を意図した土坑墓群の可能性もある。SD9は川によって東側が消失しているが、本来は切り合った土坑群であり、SK20のような土坑墓であった可能性もある。玉作り関連遺物としては、形割未製品と未穿孔の穴をもつ砥石が包含層から検出され、石鏃も含めて中期に属すと見られる。

Ⅲ区のSK1-3は形状から土坑墓と考えられ、弥生時代中期の土器片を含んでいた。SK1は遺跡中最大の土坑墓であり、底面において土器片に加え、数カ所に径1-2cmの窪みをもつ不明石器1点を含んでいた。同様な不明石器はⅠ区SK7からも出土しており、玉作りに関連する遺物かもしれない。SK2は土器片と炭化材を含んでいた。炭化材は、通常なら木棺が腐朽したものの理解するが、炭化材の検出状況を検討すると、埋葬当初から、遺体の上に数枚の炭化材を用いて覆っていた可能性もある。SK3は小児用の土坑墓であり、SK5は遺物が検出されなかったが、形状から土坑墓と考えられる。Ⅲ区では玉作り関連遺物はなく、石庖丁2点が検出された。

弥生時代における菅谷烏帽子遺跡の集落は、低湿地に営まれた、典型的な北陸における弥生時代中期の集落として捉えられるが、調査では、居住域や方形周溝墓などは確認されず、散発的に検出された土坑墓のありようから、調査区は、当時の集落の外縁にあたと考えられる。

弥生時代中期の集落は、人口増大に起因する様々な軋轢を回避すべく、前代で培った灌漑技術をさらに駆使して、山沿いや微高地上の土地から、河川の側や低湿地に積極的に進出する。

県内の弥生時代中期の集落も、丘陵地や山塊の尾根に墓域を築き、麓を拠り所として展開する集落と、洪水に晒される危険性を孕みながらも、広大な土地を占有して、墓域と集落を同一水平線上に形成する集落に大別され、菅谷烏帽子遺跡や近在する中角遺跡は後者に相当する。

後者の集落は、集落の生業を支える新たな柱として、河川を利用した「物流」という要素を組み込み、集落規模に大小を生じさせる一因となったが、時には、一方が洪水によって短期間で廃絶しても、分裂と集合を繰り返して、自在に新たな集落を形成したと考えられる。

丘陵や山地に祖先の墓域をもつ集団と、洪水で祖先の墓域を失いがちな集団で構成された社会を再構成するためには、より広域にわたって地域を貫く祖霊観、祖神観が希求されはじめ、有力首長が神へ変貌する、来るべき古墳時代への胎動となったに違いない。

第2節 8世紀の越前

・東大寺領鳴野荘について

東大院文書「越前国司解」の天平神護二年(766)十月廿一日付けの記載事項から、福井市菅谷、大瀬、水越、飯塚を含めた一帯は、かつて、鳴野村と呼ばれ、東大寺の初期荘園である鳴野荘が置かれたとされている。

糸里坪付は、「西北一条十寒江里」、「最北五条十一椽原社里」「西北六条十一菅江里」、「西北六条十二菅江西里」におよび、「菅江」は現在の地名「菅谷」の起源と考えられる。また「高岸田」の地名は、現在の三郎丸の「高木」「西高木」「東高木」に通じていると考えられる(注1)。

鳴野荘の成立年代は不明であるが、天平勝宝元年(749)四月、東大寺荘園占定のため、寺家野占寺使として僧平榮、造東大寺司史生の生江東人が北陸に派遣され、国司、郡司と協力して荘園の占定をしたことが記され(「同」天平神護二年(766)九月十九日付け事項)、天平宝治四年(759)に、校田駅使の石上奥継が、公田増加を目的として越前に派遣され、寺田を公田にしたとあり(「同」天平神護二年(766)九月廿一日付け事項)、鳴野荘は、その間に成立したと考えられる(注2)。

鳴野荘を開くために、灌漑設備として長さ210丈(広さ6尺)、60丈(広さ6尺)、30丈(広さ6尺)の3つの溝の開削と、樋6隻の設置が計画され、そのために百姓口分田1段160歩、桑原120歩などが損なわれること、用水は足羽堰から引くことが記載されている(「足羽郡司解」(東南院文書)天平神護二年(766)十月十日付け事項)。

鳴野荘から足羽川を挟んだ南側一帯には、東大寺領開田絵図で著名な「道守荘」が展開しているが、道守荘の北半分は、平基、生江臣東人に加えて、越前国医師六人部東人、足羽郡擬主根槻本老によって野占され、南半分は、生江臣東人が、足羽郡司に任命される天平勝宝末年以前に、開墾して寄進した墾田100町(注3)で成立したとされる。開田絵図から、当時は、足羽川は生江川、日野川は味間川と呼ばれていたことがわかる(注4)。

開田絵図は、東大寺と有力在地首長の墾田や農民の口分田が複雑に入り組み、寺田が侵されることあったため、寺田を整理して、寺領の一円化をはかる目的で作成されたものであり、近接する鳴野荘においても天平神護二年(766)十月に、国司と東大寺で鳴野荘の荘園領域を定めたこととある。

それによると、鳴野荘は、荘園の百姓口分田2町2段309歩を改正し、その他2町1反202歩を寺田と相替し、4反206歩を新たに買取して、寺領の一円化を進めたこととされ(「越前国司解」(東南院文書)天平神護二年(766)十月廿一日付け事項)、正確な規模は不明だが、鳴野荘には、少なくとも4町8反357歩の荘田が存在したと考えられる(注5)。

・越前における東大寺領の盛衰

8世紀中頃、都は天平七~九年(735~737)の天然痘の流行や、天平十二年(740)の藤原広嗣の乱など、危機的状況にあり、鎮護国家を目指すべく聖武天皇によって大仏建立事業が発願された。大仏建立は財政的に大きな負荷を与えることとなり、地方における東大寺などの寺社領と貴族領のさらなる拡大を押し進め、対立構造を生むことにつながった。

自らが開発した墾田を私財と認め、税金増加を目論んだ天平十五年(743)の墾田永世私財法の発布は、大土地所有志向を促した。「大國」に等級され、広大な沃野をもつ越前国は、東大寺をはじめとする有力寺社、政権を掌握した藤原仲麻呂、中央官人、在地首長、口分田をもつ農民を巻き込んで開発が押し進められた。

天平宝治二年(757)、淳任天皇が即位し、仲麻呂が惠美押勝の名を賜り、翌、天平宝治四年(760)に太政大臣となって政権を完全掌握すると、太政官直屬機関である造東大寺司は弱体化を余儀なくされた。仲麻呂は、子息や近縁者を越前国司の守、介に任じて、経営基盤を同じくする東大寺に対し圧力をかけてゆき、巡察使石上奥継を使わし、東大寺の寺田を農民に班給したり、有力在地者の佐味入麻呂(注6)による東大寺の寺田侵害を黙認した。

天平宝治四年(759)、仲麻呂の後継となっていた光明皇太后の崩御を機に、反仲麻呂派の勢力が強まり、天平宝治八年(764)、仲麻呂の子息である調備麻呂が坂上田麻呂(田村麻呂の父)に射殺され、孝謙上皇に駅鈴と天皇御璽が戻ると、仲麻呂は越前国へ脱出を謀るが、越前国守にした仲麻呂の子息である辛加知は、既に征討軍によって越前国府で処され、愛発関を封じられた仲麻呂は、石村石楠によって処刑された。

仲麻呂没後、神護景雲二年(768)五月、越前における仲麻呂の所領200町は、奈良の西隆寺に施入され、仲麻呂一族の越前における所領も全て没収されたようである。道守莊開田絵図に名が見える、仲麻呂側であった淳仁天皇の兄である船王や、越前少目上毛野奥麻呂の戸口である田辺来女の所領も同様に没収されたと考えられる。

その後、東大寺領は保護を受けるが、経営方式そのものが、野地の開発を主とし、独自の荘民も少なく、賃租や労働力は、郡司に委ねられた形であったため、「道守鑑庄田、難在糸里、本自或荒野、或原沢、更無□寄作人」(「足羽郡庁牒」(東南院文書)天曆五年(951)十月廿三日付け事項)とあるように、10世紀半ばの段階で、東大寺別当僧光智によって派遣された諸庄収納使の要求に対し、足羽郡衙でさえ東大寺領荘園の場所は不明と答えるほど、荘園は荒地と化してしまっただけである。鴨野荘に関しては、弘安八年(1235)八月の東大寺領越前國願倒荘々々進案に「鴨村庄」の名が見えて最後となる。

注

注1. 文11

注2. 文3・4

注3. 福井市小稲津付近の取水口(文3)から2,500丈(7km)の用水を掘削して成立した背景をもつ。近辺の調査例である小稲津遺跡(文11)において、8世紀代の須恵器、墨書土器が出土している。また、小稲津集落東側の水田で「黒麻呂」「押麻呂」などの墨書土器が地元民によって採集されている。

注4. 生江川の生江は、足羽川が福井平野に出る、福井市酒生地域を本拠にした「生江臣」、味間川の味間は、越前市(旧武生市)五分市町、味良野町の地域を本拠地にしたと考えられる「味良公」といった有力豪族の名に通じる。酒生には藤尾廃寺、五分市町には野々宮廃寺といった古代寺院が存在する。

注5. 文4

注6. 野々宮廃寺から西へ3.3km隔てた村国山の北側に位置する村国遺跡(文8)は、越前市村国3丁目を中心に広がる遺跡であり、遺構2E区SD2030 から「佐味」、「佐家」「佐印」「佐」と記した墨書土器が大量に出土している。天平17年(745)佐味朝臣虫麻呂が越前国守となったことと関連するのかもしれない。また、村国の地名は、美濃の豪族である村国連一族とも関連しており、壬申の乱の功臣である村国連雄依の孫である村国連嶋主は越前国守藤原執柄の少掾であった。村国虫麻呂は知家事であり、藤原仲麻呂の子である辛加知の介を務めた。

参考文献

1. 浅野清『奈良時代建築の研究』中央公論美術出版 1969年
2. 石川県小松市教育委員会編『八日市地方遺跡－小松駅東土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－』I 第1分冊(本文・写真図版編) 石川県小松市教育委員会 2003年
3. 小栗田淳 監修『福井県の地名』郷土歴史大事典 日本歴史地名体系第18巻 平凡社 1993年
4. 竹内理三編『角川地名大辞典』18福井県 角川書店 1989年
5. 鶴見泰寿『造東大寺司の活動』『平成12年度秋季特別展 大仏開眼－東大寺の考古学－』奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 2000年
6. 寺沢薫 森岡秀人編著『弥生土器の様式と編年』近畿編Ⅰ 木耳社 1989年
7. 寺沢薫 森岡秀人編著『弥生土器の様式と編年』近畿編Ⅱ 木耳社 1990年
8. 林憲司『村国遺跡』武生市埋蔵文化財調査報告X 福井県武生市教育委員会 1989年
9. 橋本澄夫『石川県 吉崎・次場遺跡』『探訪弥生の遺跡』畿内・東日本編 有斐閣 1989年
10. 福井市『福井市史』資料編1考古 1990年
11. 福井県『福井県史』通史編1古代・中世 1997年
12. 福井県『図説福井県史』1998年
13. 福井県『福井県史』資料編16下 福井県 糸里復原図－解説編－ 1992年
14. 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター『小稲津遺跡』福井県埋蔵文化財調査報告第59集 2002年

写 真 图 版



(1) 調査区遠景 (南東から)



(2) 調査区遠景 (西から)



(1) I区遠景 (南から)



(2) II区遠景 (南から)

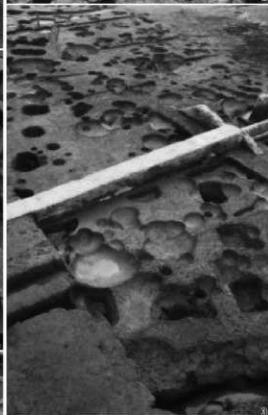
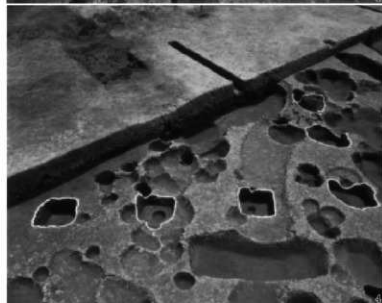
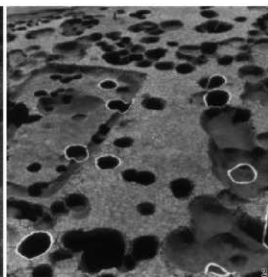


(1) I区遠景 (西から)

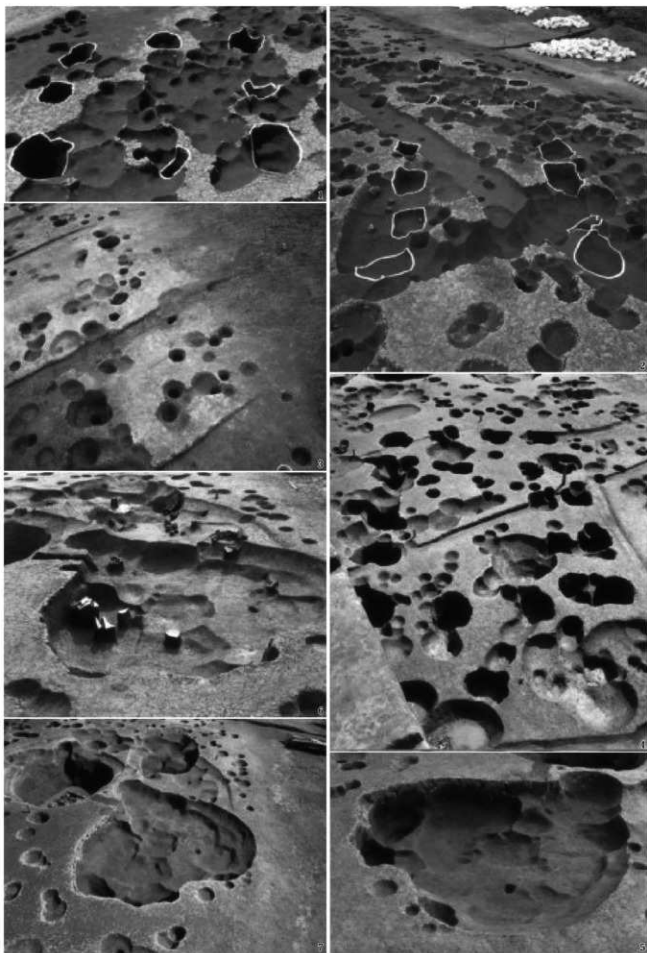


(2) II区遠景 (西から)

図版第四
遺構
I区



(1) SH1 (南西から) (2) SB1 (南東から) (3) SB2 (北東から) (4) SB3 (北西から) (5) SB4 (南東から)
(6) SB5 (南東から)



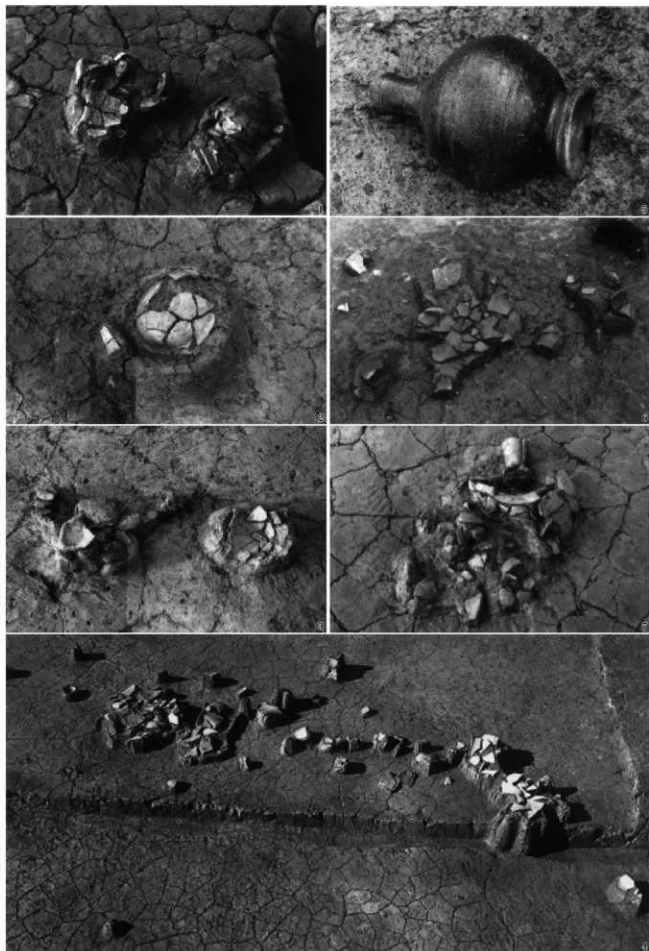
(1) SB6 (南東から) (2) SB7 (南東から) (3) SB8 (北東から) (4) SB9・10 (北東から)
 (5) SL1、SW2、SK117・118、SD10 (北東から) (6) SK123 (南西から) (7) SL2、SK123・122 (南西から)



(1) SW1(SL3) (北東から)

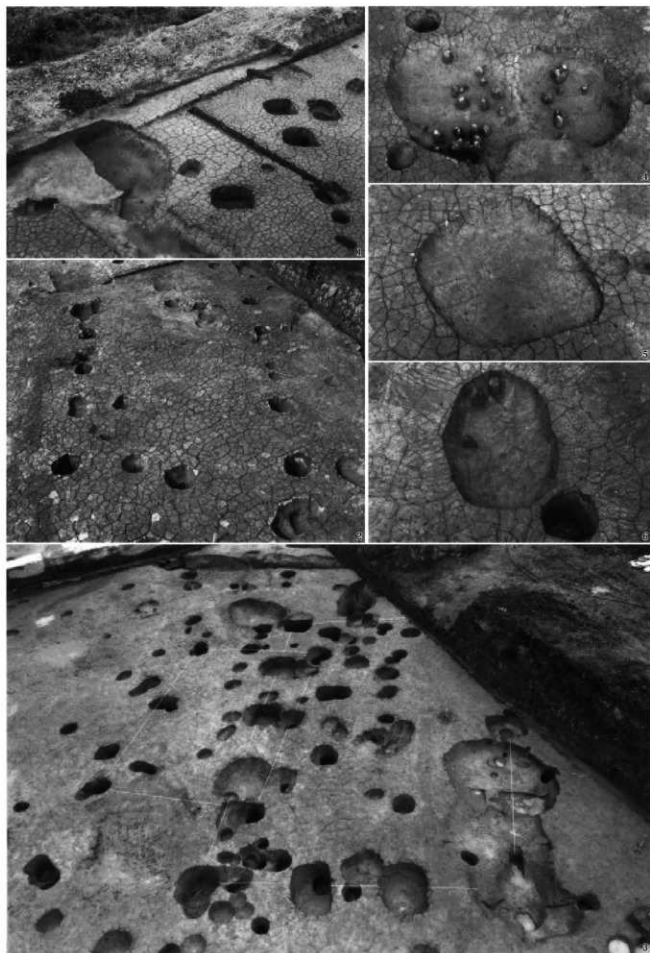


(2) SW1(SL3) 井戸枠解体断面 (北東から)

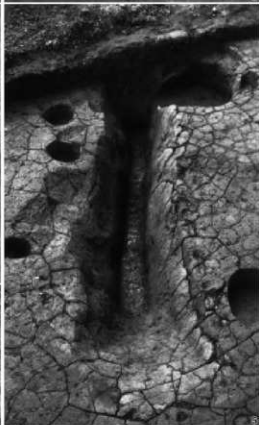
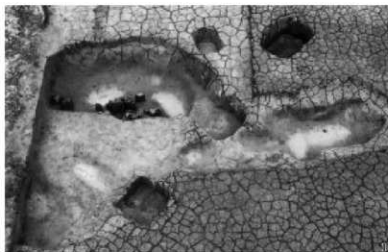


(1) C11 X001遺物群 (南から) (2) SD6上面 X004遺物群 (南から) (3) C3 SD6付近 X006遺物群 0a.10下面 (南から)
 (4) C3 SD6付近 X006遺物群 0a.1-9 (南から) (5) D12 P43上面遺物出土状況 (北から) (6) B10包含層遺物 (南から)
 (7) C4 SD6付近 X006遺物群 0a.10上面 (南から)

図版第八
遺構 II 区

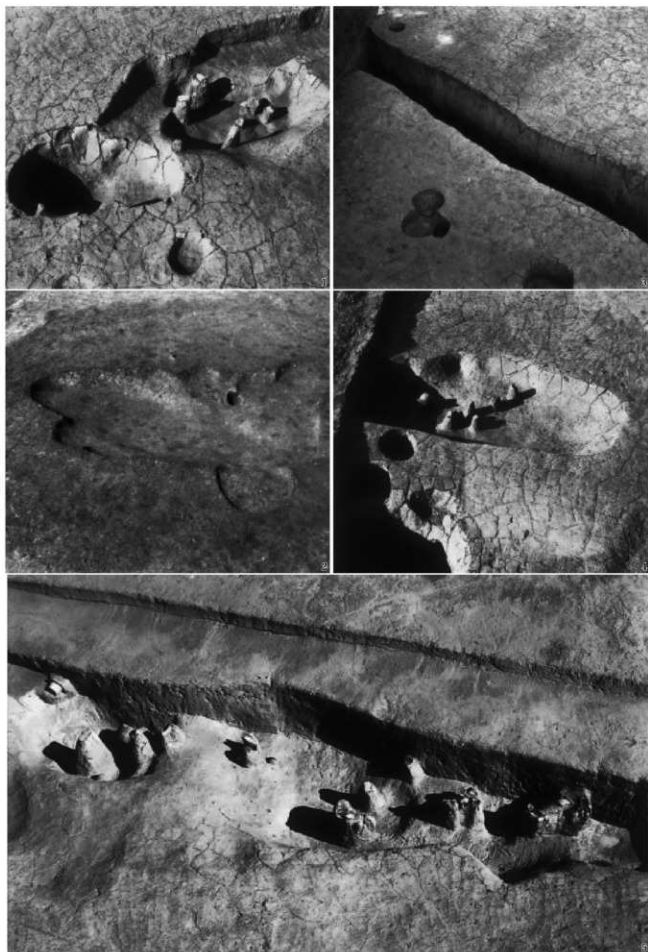


(1) SB3南東辺 (南東から) (2) SB12 (南西から) (3) SB13・14 (南西から) (4) SK1・2 (南から)
(5) SK3 (南から) (6) SK4 (南から)



(1) SK6・7 (南から) (2) SK6 遺物出土状況 (南から) (3) SK19・20 (東から) (4) SK20 遺物出土状況 (南西から)
(5) SD6 (北西から) (6) SD6 (南東から)

図版第一〇 遺構 II 区



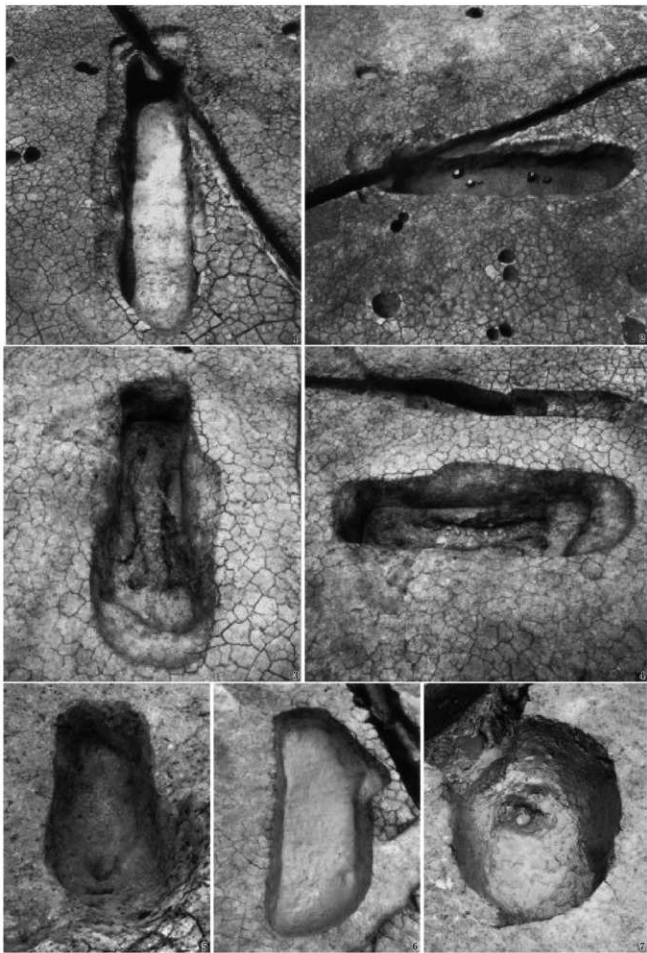
(1) SK15 (南から) (2) SK21 (南から) (3) SD6 (南から) (4) SD8 (南から) (5) SD9 (北西から)



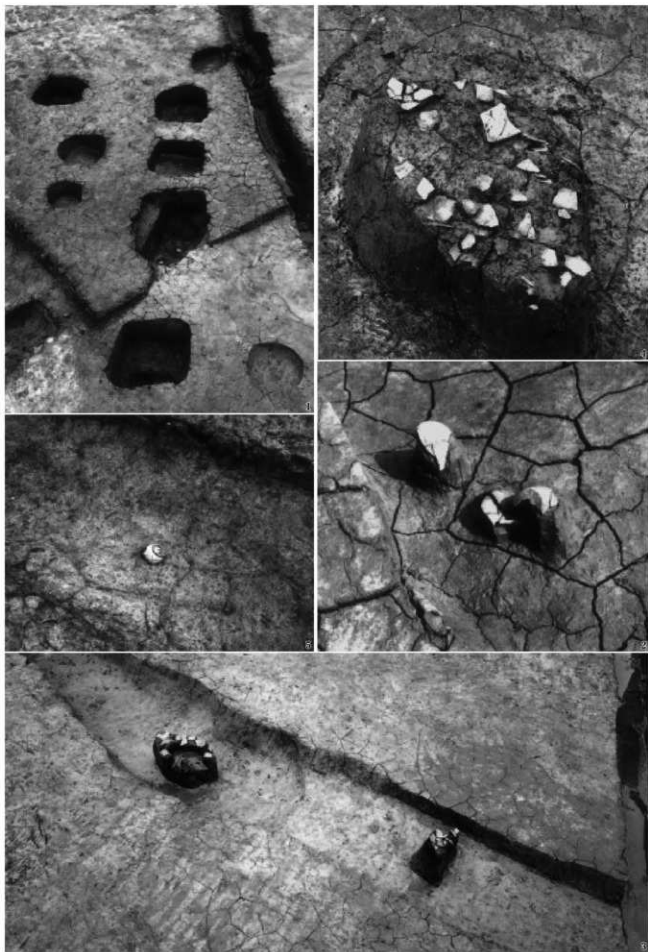
(1) Ⅲ区遠景（南から）



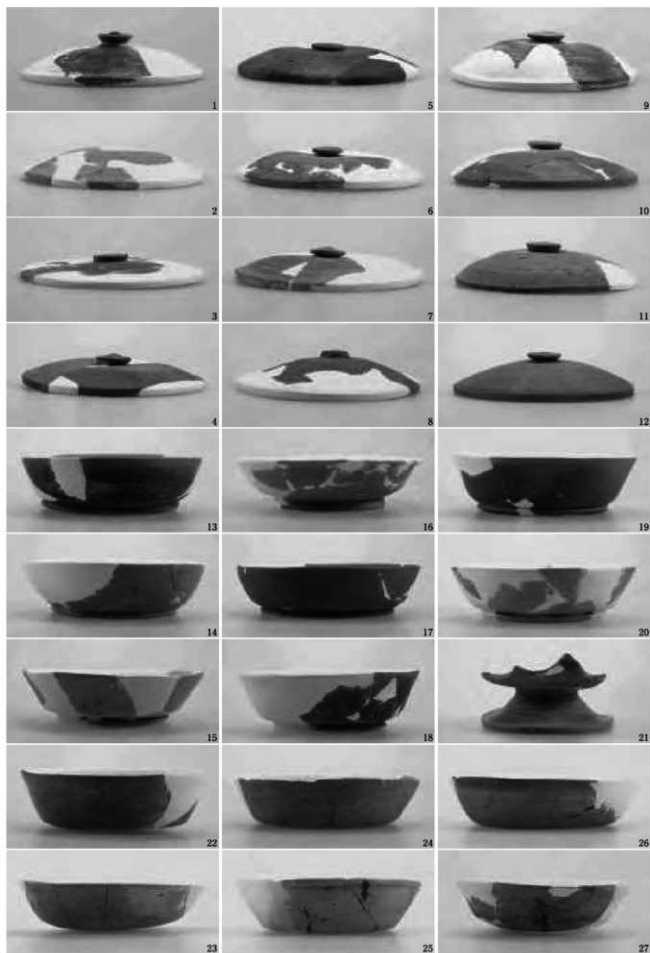
(2) Ⅲ区遠景（北から）



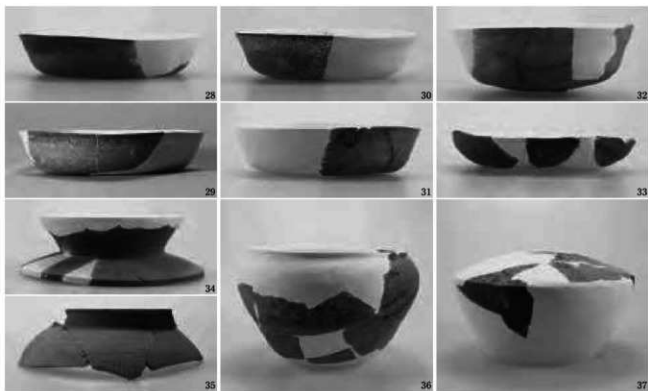
(1) SK1 (南東から) (2) SK1 (南西から) (3) SK2 (南東から) (4) SK2 (南西から) (5) SK3 (南東から)
(6) SK5 (南西から) (7) SK6 (南から)



(1) SB15 (P1~5) (南西から) (2) SD5内D28X002 (南から) (3) SD5内D28 X003・004 (南から)
(4) G34 X005 (南から) (5) SD6内 X006 (南から)



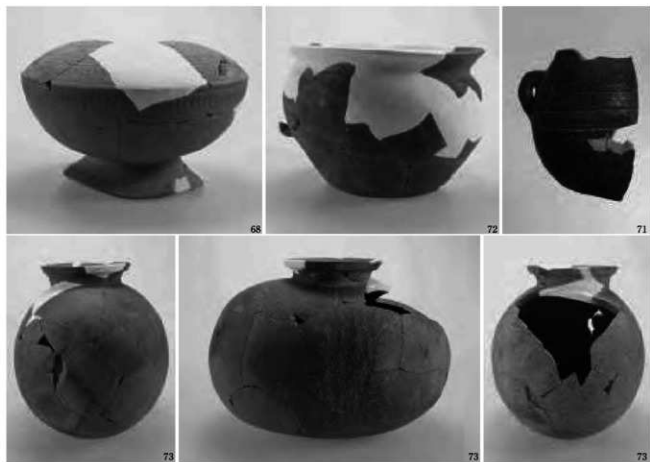
I区包含層出土遺物 須惠器



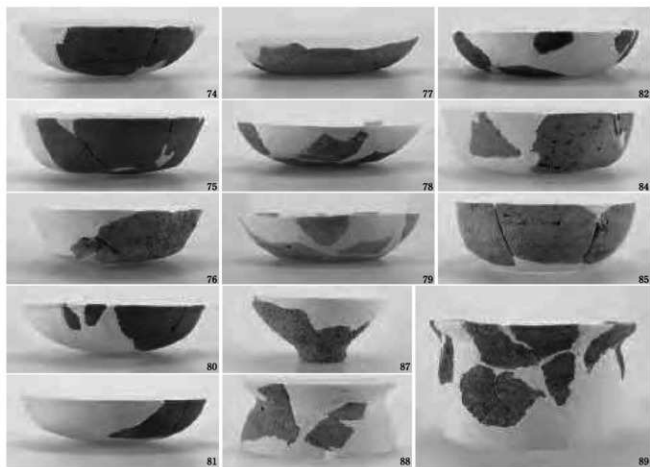
I区包含層出土遺物 須惠器



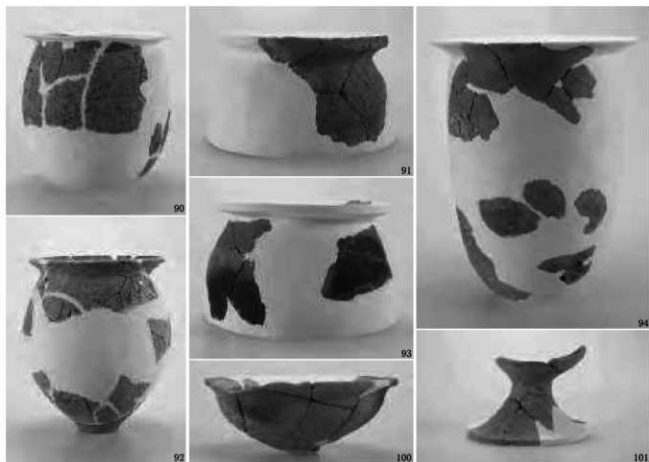
II・III区包含層出土遺物 須惠器



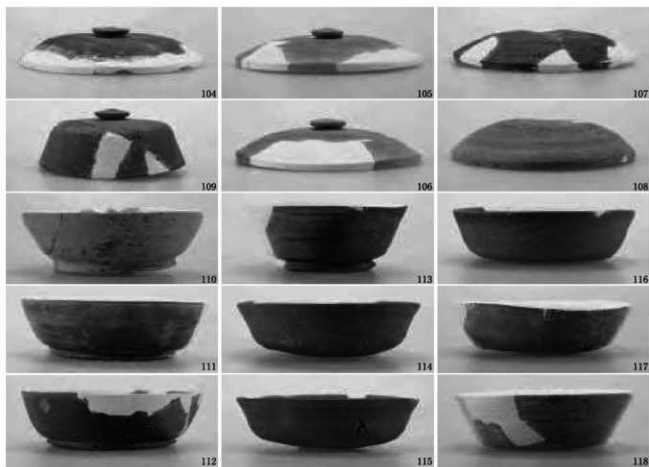
II・III区包含層出土遺物 須恵器



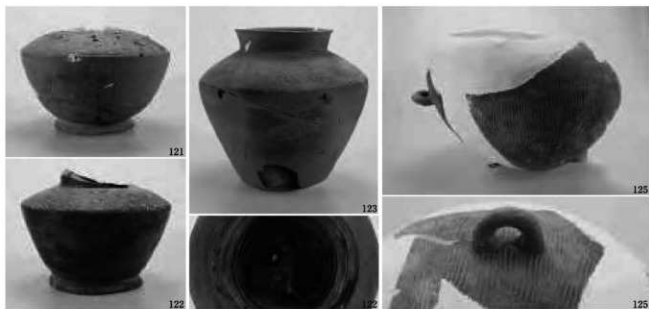
I区包含層出土遺物 土師器



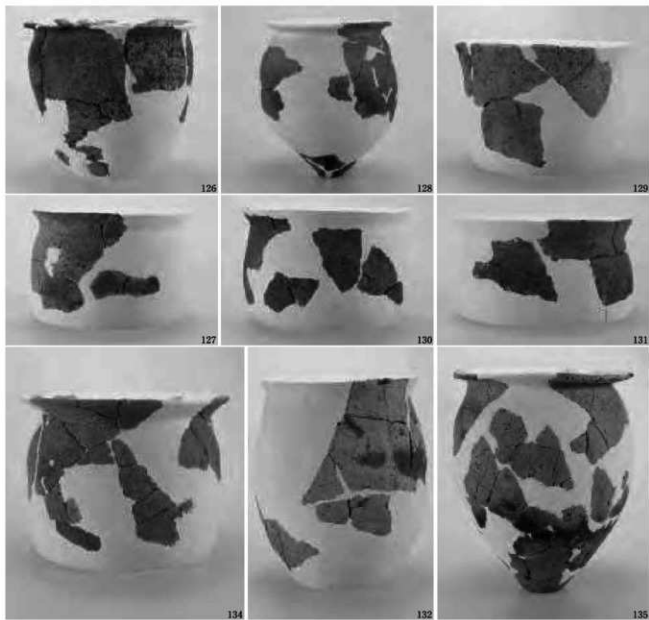
I～III区包含層出土遺物 土師器、弥生土器



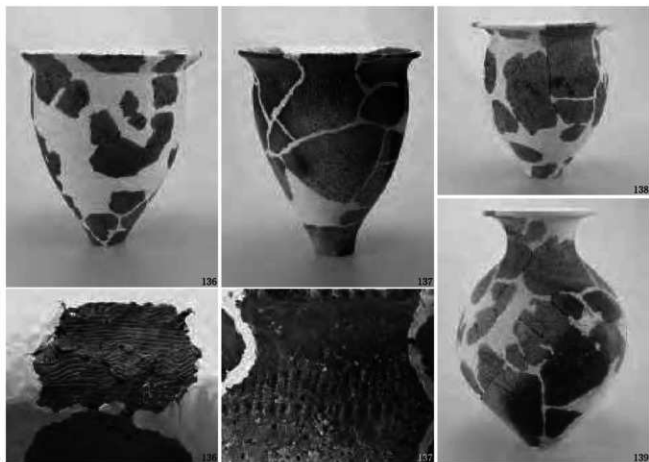
I区遺構出土遺物 須恵器



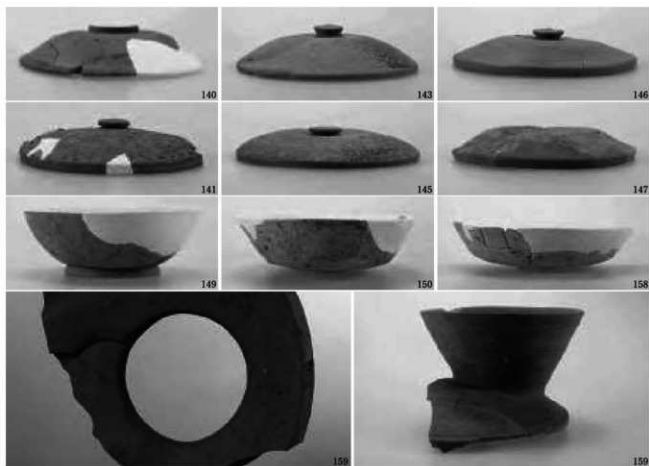
I区遺構出土遺物 須恵器



I区遺構出土遺物 土師器、弥生土器

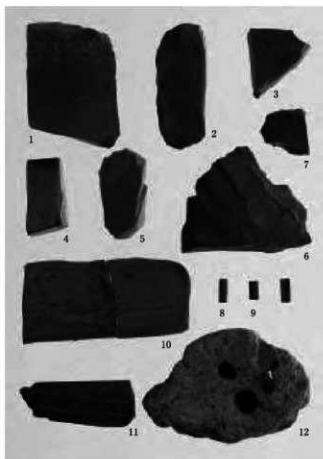


I区遺構出土遺物 弥生土器



II・III区遺構出土遺物 須恵器、土師器

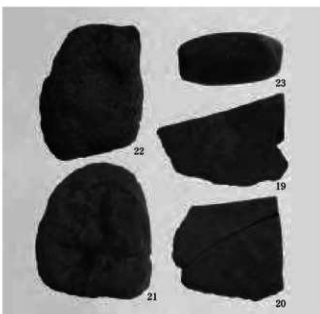




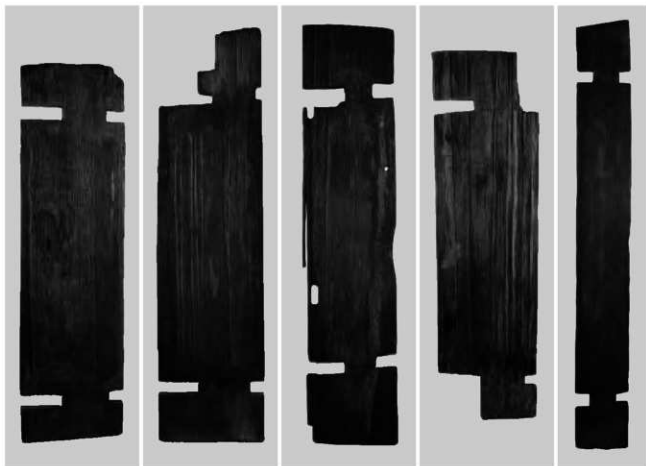
(1) 玉作り関連遺物



(2) 石鏃、石錐



(3) 石庖丁、不明石器、土錘



(4) I区SW1井戸枠板材

報告書抄録

ふりがな	すがやえほしいせき							
書名	菅谷烏帽子遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	福井県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第104集							
編著者名	鈴木篤英							
編集機関	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒910-2152 福井県福井市安波賀町4-10 TEL 0776-41-3644							
発行年月日	西暦2009年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
菅谷烏帽子遺跡	福井県福井市菅谷	18201	01124	36度 04分 28秒	136度 11分 09秒	19940223～ 19950331 20050702～ 20060331 20060402～ 20060731	2,900 2,200 1,200	日野川等河川 改修事業 日野川等河川 改修事業 日野川等河川 改修事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
菅谷烏帽子遺跡	集落	弥生時代中期 奈良～平安時代	土坑墓 掘立柱建物 井戸	弥生土器 須恵器 土師器 玉作り関連遺物				
要約	<p>菅谷烏帽子遺跡は、弥生時代中期と奈良～平安時代の複合遺跡である。弥生時代の遺構は土坑墓が検出され、玉作り関連の遺物も検出された。奈良～平安時代の遺構としては、同一方向に主軸をもつ掘立柱建物群や井戸が検出され、8世紀代の須恵器、土師器が検出された。一帯は、東大寺領荘園である鳴野荘の推定地とされ、建物群は鳴野荘に関連する遺構と考えられる。</p>							

福井県埋蔵文化財調査報告 第104集

菅谷烏帽子遺跡

－日野川等河川改修事業に伴う調査－

平成21年3月23日 印刷

平成21年3月31日 発行

発行 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

〒910-2152 福井市安波賀町4-10

印刷 株式会社 エクシート

〒919-0482 福井県坂井市春江町中庄61-32
